

1 魅力ある教師になるために

教師とは、生徒とともに成長することのできるすばらしい職業です。魅力ある教師になるために心がけることを述べます。

1 生徒との関係づくり

学校生活全般において、生徒との信頼関係を築きましょう。生徒の様子をよく観察し、理解を深めるとともに、教師としての立場を踏まえ、生徒との約束を必ず守りましょう。また、生徒の名前を早く覚えたり、挨拶や言葉遣いにも気を配り、生徒との良好な関係を築きましょう。日頃から、生徒の様子をよく観察し、積極的に声をかけたり、よい変化や成果に対してコメントを返したりすることで、生徒の成長を促すことができるでしょう。

2 授業づくり

全ての生徒にとって学校生活の基盤となるのは授業です。授業をよりよい学びの場とするために、生徒が積極的に参加でき、達成感や満足感を味わえるような授業づくりを心がけましょう。まずは、教師自身が笑顔で楽しく授業を行うことが大切ですが、場合によってはメリハリをつけて生徒を厳しく指導する必要もあります。気付いたことや生徒の間違ひは、その場であるいは後ほど、個別または全体に伝えるようにしましょう。

また、生徒の取組状況をよく観察し、理解度や到達度を把握しながら授業を進めることも必要です。授業中の活動の観察や、授業後のワークシート等のチェックを通して、授業改善に役立てることもできます。

さらに、授業を通して教科の魅力を生徒に伝えることも教師の役割の一つです。英語を学ぶことの楽しさや意義を、自らの体験などを踏まえ生徒に語る機会をつくりましょう。

3 同僚性・チームワーク

教師が互いに支え合い、学び合える関係を構築することは、学校全体の組織力の向上や、生徒の成長にもつながります。英語科内だけでなく、他教科とも連携し教育活動に取り組むことが必要です。教科指導や生徒指導などにおいて、同僚から積極的に学ぶようにしましょう。困った時には悩みや心配事を一人で抱えこまず、先輩教師に相談して問題の解決を図るようにしましょう。教育活動の全ての場面において、「ともに働く」という姿勢が大切です。

4 自己啓発・自己管理

教師には担当教科の内容にとどまらず、幅広い知識と教養が求められます。常に自己を高めるための努力を惜しまず、学び続ける姿勢を大切にしましょう。まずは、教師として自身の英語力の向上を図りましょう。研修や研究などを通して研鑽を積むことや、検定試験を積極的に活用することも有効な方法です。また、教材の背景知識、映画、音楽、ニュース、会話に役立つ表現など、生徒の意欲を喚起する話題を日頃から蓄えておく必要があります。

さらに、魅力ある教師として活躍するために、心身ともに健康であることが大切です。教師には授業だけでなく、ホームルーム経営や部活動指導など多岐にわたる仕事があります。特に若い頃は無理をしがちですが、十分に休養をとったり、リフレッシュしたりすることが大切です。オンとオフの切り替えをうまく行い、時間を有効に使うように心がけましょう。



2 今、英語教育に求められるもの

国際化や社会の変化に伴い、英語教育における改革も急速に進んでいます。英語で積極的にコミュニケーションを図る態度を育むとともに、生涯にわたって英語を学び続け、世界を舞台に活躍できる人材の育成が求められています。ここでは、生徒の将来を見通し、効果的な指導を行うための指針を示します。

1 CAN-DOリストの活用

生徒がどのような英語力を身に付けることができるのかを、高校卒業時及び学年ごとの「学習到達目標」として示した、各学校のCAN-DOリストを活用しましょう。教師が共通理解に基づき、生徒の学びをサポートするための指針となります。また、生徒にも学習到達目標を示すことにより、見通しを立てて学習に取り組ませる手助けとなります。また、他教科の教師や保護者にもCAN-DOリストを示し、学習到達目標を共有しましょう。このCAN-DOリストを基に、年間学習指導計画を立てます。さらに、単元構想において、単元の目標を達成するための言語活動や、単元の評価基準と評価方法を、評価の観点や4技能のバランスを考慮しながら定めます。



日々の授業が、右上の図のように、学校目標、CAN-DOリスト、年間学習指導（評価）計画、単元構想に基づいたものであることを常に意識し、つながりのある一貫した指導を心がけましょう。学年末に生徒の学習到達目標を確認して、CAN-DOリストの見直しを図ることも必要です。

CAN-DOリストでは、学習到達目標が積み上げ式で示されていますが、英語の習得の過程では、学期・学年ごとの計画に基づき、繰り返し4技能を学習活動に取り入れ、知識や技能を身に付けさせることを重視します。

2 新しい時代に求められる資質・能力の育成

(1) 思考力、判断力、表現力等の育成

英語の授業では、教師が中心となり「教える」授業から、生徒が主体的に「学ぶ」授業への転換が求められています。授業を実際のコミュニケーションの場面とするために、生徒同士が自分の意見や考えを英語で伝え合う機会を授業の中で増やすことが必要です。言語活動を行う上で、「聞くこと」、「話すこと（やり取り・発表）」、「読むこと」、「書くこと」を効果的に結び付ける工夫をしましょう。例えば、「読むこと」や「聞くこと」によって、概要や要点を捉えさせ、それについて英語で話し合わせたり、話し合った内容を要約させたりすることで「話すこと」や「書くこと」につなげることができます。さらに、題材の内容に関して、自分の意見や考えを発表したり、討論したりする活動に発展させることもできます。複数の技能を個別に扱うのではなく、互いに関連付けながら、4技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力を育成することが必要です。

(2) 生きて働く知識・技能の習得

コミュニケーション能力を育成するためには、英語のインプットとアウトプットのつながりやバランスを考えることが大切です。インプットに偏ると授業が解説中心となり、インプットが不足するとアウトプットが量的にも質的にも不十分なものになります。また、インプットとアウトプットを有機的に関連付け、新しい知識を生徒に理解させた上で使わせるのではなく、それを生徒に使わせながら気付きや理解を促すように指導すると効果的です。文法や語彙などの知識をコミュニケーションを支えるものとして捉え、例えば「電話の応答」のような具体的な言語の使用場面を設定し、ペア・ワークやグループ・ワークによる言語活動を通して、活用できる知識として定着を図りましょう。

(3) 発信力の強化

多様な考え方ができる話題について、意見を伝え合う活動を設定し、論理的に表現したり、即興で話したりする力を養いましょう。例えば、授業にスピーチやプレゼンテーション、ディスカッションやディベートなどの言語活動を取り入れ、自分の意見の論点や根拠を明らかにして相手に分かりやすく伝え、相手の質問や反論に即興

で対応できる力を育成しましょう。論理の展開や表現の方法を工夫させ、意見の裏付けとなる情報や資料を、ICT機器を活用させるなどして、生徒が自主的に探し活用できるように指導することも大切です。また、聞き手には質問や感想を返させるなど、即興で伝え合うような双方向的な活動を目指しましょう。

(4) 「主体的・対話的で深い学び」の実現

自ら課題を発見してその解決に向けて、ペアやグループで取り組み、理解を深めるような学びを多くの場面で取り入れましょう。例えば、教科書の題材に応じて、環境問題の解決や宇宙開発の在り方など、答えが一つに限定されない課題について、ディスカッションやディベートの形で取り組む活動があります。学び合いや考えを伝え合う活動を通して、さまざまな知識や情報が結び付き、内容理解が深まることで、学習への動機付けや興味・関心が更に高まることが期待できます。学習の過程で生徒の思考が活性化され、より広い視野から問題を捉え、高い次元で考えて課題を解決できる力を養うことを目指しましょう。

「指導と評価の充実に向けて ～学習評価の工夫改善を意識した学習指導のポイント～」(愛知県総合教育センター)にも、詳しく解説されています。

3 学習評価の工夫

(1) 観点別評価

学習到達目標に照らして、生徒の学習状況を「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」、「外国語表現の能力」、「外国語理解の能力」、「言語や文化についての知識・理解」の観点から評価します。それぞれの観点について、年間学習指導計画や単元構想の中で、単元の評価規準を設定し、評価方法を明確にします。定期考査の設問ごとに評価の観点を明示し、答案返却後、生徒に観点別の学習到達度を把握させるなどの工夫もできます。

さらに、定期考査だけでは測ることのできない力を評価し、生徒の学びを見取るために、パフォーマンステストを実施したり、授業中の活動を継続的に観察したりすることが求められます。

(2) パフォーマンス評価

年間を通して「聞くこと」「話すこと(やり取り・発表)」「読むこと」「書くこと」について総合的に評価するために、パフォーマンステストを実施することが必要です。スピーチ、プレゼンテーション、インタビュー、エッセイ・ライティング等の課題に取り組みさせることによって、身に付いた力や学習成果を評価します。

パフォーマンス評価を行う際には、測りたい能力(評価項目)を明確にした上で、ルーブリック(評価基準表)を作成しましょう。「何をどのように評価するのか」という基準を教師間で共有することで、評価に差が出にくくなり、評価の信頼性が高まります。ルーブリックを事前に示すことで、生徒は何を学ぶべきかが分かり、学習に取り組みやすくなることが期待できます。また、タブレット端末などを活用し、パフォーマンスの様子を記録することで、ポートフォリオを作成することも可能です。生徒の学習成果や課題を的確に把握し、それを生徒に還元することで、学習意欲の向上や学習方法の改善につなげることができます。また、評価内容を教師の振り返りや授業改善にも生かし、指導と評価の一体化を図りましょう。

【関連資料：パフォーマンステスト例(インタビューテスト)】

内容㉗：指定された三つのキーワードを用いて、本文全体の内容を口頭で要約する。

内容㉘：その後、自分の将来の夢について話す。

《ルーブリック》 *表中の()内の数字は配点を示す。「内容㉗㉘」と「声の大きさ」の配点を「正確さ」よりも高くすることにより、内容を重視しながら、間違いを恐れずに話すことを促し、単元のポイントを強調することができる。

	A	B	C
内容㉗	三つのキーワードを使い、分かりやすく内容を伝えることができる。(6)	三つのキーワードを使い、おおよその内容を伝えることができる。(4)	おおよその内容を伝えることができていない。(1)
内容㉘	自分の将来の夢を具体的な理由とともに伝えることができる。(6)	自分の将来の夢を伝えることができる。(4)	自分の将来の夢を伝えることができていない。(1)
声の大きさ	はっきりと聞き取ることができる適度な大きさである。(5)	聞き取りにくい部分もあるが、おおよその内容を聞き取ることにはできる大きさである。(3)	聞き取ることが難しいほどの大きさである。(1)
正確さ	文法、語法等の誤りがほとんどない。(3)	文法、語法等の誤りがあるが、意味内容の伝達を妨げるほどではない。(2)	文法、語法等の誤りが多く、意味内容の伝達が妨げられている。(1)

3 授業をコミュニケーションの場にするために

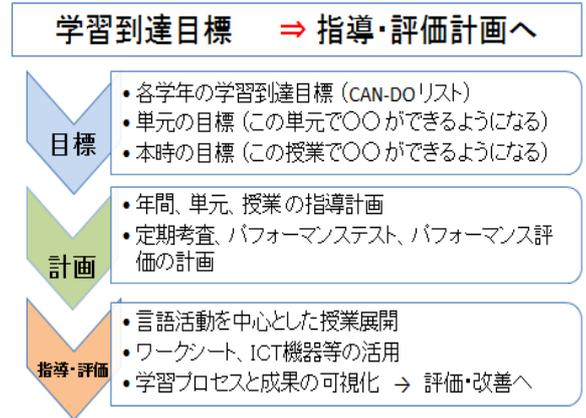
毎日の授業がうまくいかずに悩んでいることはありませんか。ここでは指導の過程を、授業の事前準備、授業中、授業後の3段階に分けて、授業を成功させるための留意点を述べます。

1 授業の事前準備

(1) 単元構想と学習指導案の作成

【単元構想・学習指導案作成上の留意点】

- ア 単元全体を通して生徒に身に付けさせたい力は何か
- イ 単元の目標を見据え、本時の目標を具体的にどう設定するか
- ウ 目標達成のために生徒にどのような学習や言語活動をさせたらよいか
- エ 段階的な指導をどのように行うか
- オ 目標の達成状況を評価するための方法及び具体的な評価基準をどう設定するか
- カ 使用すべき教材・教具は何か
- キ 家庭学習で取り組ませることは何か



授業の指導計画を立てる際に、右上の図のように、学習到達目標からのつながりを確認します。ワークシートや言語活動の内容、指導・評価方法について、他の教師と共通理解を図った上で、授業に臨むように心がけましょう。

(2) 教材研究

学習指導案の作成が授業の「骨格づくり」だとすれば、教材研究は授業の「肉付け」に当たります。教師にとって教材研究とは、教える立場での予習であり、授業の目標を達成するためのものでなければなりません。

【教材研究を行う際の留意点】

- ア 題材を十分に掘り下げる
教科書で扱われているテーマの背景知識を調べ、内容について理解を深めることで、生徒の興味や関心を引き出すことができ、学習への動機付けにつながります。他教科の教師に助言を求めることも有効です。ただ教科書の内容理解を促すだけでなく、題材について日常生活と関連させ、自分の意見を述べさせるなど、「教科書で」教えるための準備をしましょう。
- イ 言語材料についての知識を深める
語彙や文法・語法の確認を十分に行い、生徒の疑問に答えられるように準備しましょう。英英辞典や活用辞典も活用し、よい用例や例文を授業で示せるように準備しましょう。
- ウ 授業の目標に応じて、言語活動を工夫する
生徒が主体的に英語を使えるような言語活動を取り入れられるように準備しましょう。「聞く・話す・読む・書く」といった技能をバランスよく使い、理解や思考を深めさせるような工夫もしましょう。
- エ ワークシートを有効活用する
学習到達目標に向けての指導の道筋を明確にし、生徒に何をどのように学ぶのかを示すために、ワーク

シートを作成しましょう。ワークシートに言語活動のねらいやルーブリックを掲載することも効果的です。

オ 授業のねらいに合った板書計画を立てる

生徒の学習を支援するために板書を工夫することも重要です。授業の目標や1時間の流れを示したり、特に重要な事項を色分けし、使う色にも配慮したりするなど、実際に板書する形式で板書計画を立てましょう。パワーポイントやピクチャーカードなどのビジュアル教材も有効です。

カ 教材を何度も音読する

教師が話したり読んだりする英語は、生徒にとってのモデルとなります。事前に教材の音声を聞いて、発音やリズム、イントネーションを確認しておきましょう。

2 授業中

(1) 授業の目標を示し、生徒に英語を使わせよう

授業で身に付けさせる力を明確にし、生徒が英語を使う場面を増やしましょう。間違いを恐れず発言できる雰囲気をつくり、積極的にできる限り多くの英語を使わせましょう。

(2) 教師と生徒が「楽しさ」を実感できる授業を心がけよう

まず、教師の話す英語を工夫しましょう。生徒の理解を促すために、強弱やスピードに配慮し、分かりやすく簡潔に話しましょう。授業中に教師が使う英語には決まった表現があるため、年度当初に表現集として生徒に渡しておくとも効果的です。さらに、全ての生徒が授業に参加し活躍できる場面をできる限り多くつくりましょう。教師と生徒、あるいは生徒同士の英語によるやり取りや関わり合いで、授業が活性化されます。生徒が英語の授業の楽しさを実感できれば、その先の英語による活動や英語の学習に意欲的に取り組む動機付けになります。

(3) 生徒の実態を把握し、個に応じた指導やフィードバックを心がけよう

教師は授業中に、クラス全体の傾向を把握すると同時に、生徒一人一人の特性などにも注意を払い、個に応じた指導に努めることが必要です。全ての生徒が目標に到達できるように、また、より高度な学習内容を求める生徒にも応えられるように、生徒の学習状況や実態に応じた指導を行いましょ。例えば、ペア・ワークなどの言語活動は、最初は全員の生徒にとって取り組みやすいものから始め、段階的に高度な活動を取り入れると効果的です。また、生徒の取組状況をよく観察し、よい点や改善点を示す等の適切なフィードバックを心がけましょ。

(4) ALT をうまく活用しよう

授業を実際のコミュニケーションの場とするためには、ALT は貴重な存在です。生徒がALT と話す機会を充実させましょ。また、ALT には、あらかじめ計画的に依頼することにより、授業の実践だけでなく、難しい英文を生徒の習熟度に応じて書き換えてもらったり、パフォーマンステストの評価をしてもらったりすることもできます。

(5) 教育機器を有効に活用しよう

最近の教育機器、特に ICT 機器の進歩にはめざましいものがあります。ICT 機器はビジュアル教材、音声教材等をあらゆる場面で活用でき、生徒の理解の促進や、言語活動の活性化、さらに学習へのモチベーションの向上に役立てることができます。例えば、教材に関連した動画の視聴によって、内容理解を深めさせるとともに、リスニング力を向上させることができます。また、活動中や成果発表における生徒の様子を記録し、振り返りや評価に活用することも効果的です。ただし、動画や情報を利用する際には、個人情報扱いや著作権にも十分に注意を払う必要があります。

授業の目標を達成するために、ICT 機器を生徒に活用させることが効果的な場面も多くあります。学校にある

機器の特徴をよく把握して、生徒のコミュニケーション能力の育成のために、最大限活用しましょう。

【関連資料：ICT機器の活用】

- 愛知エースネット（愛知県総合教育センター） <http://www.aichi-c.ed.jp/> ICTの授業活用
- えいごネット（英語教育協議会・E L E C） <http://www.eigo-net.jp/info/case/ict/> 事例・指導案 ICT
- 公益社団法人 著作権情報センター <http://www.cric.or.jp/> 著作権 Q & A

3 授業後

(1) 学習意欲を高めさせるような評価をしよう

生徒の学習意欲を引き出せるように、取組や成果を肯定的に評価しましょう。授業で使用したワークシートを活用し、生徒に学習成果をフィードバックしたり、CAN-DO リストやルーブリックにより、生徒に現在の到達度と今後の目標を確認させたりすることは、生徒の学習意欲の向上にもつながります。また、自己評価や相互評価を通して、学習状況を客観的に捉える力や自律性を養うことも大切です。

(2) 効果的な家庭学習を促そう

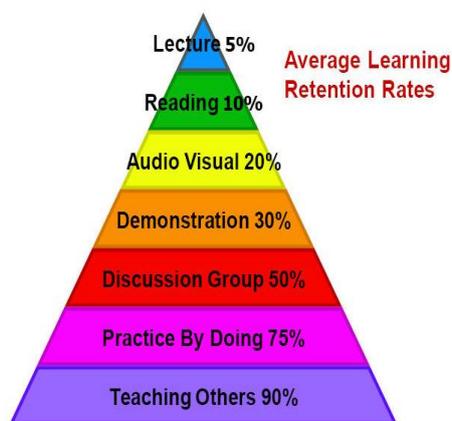
生徒に「次の目標を達成するために家庭で何を学習すべきか」「できていない部分を克服するために、学習方法をどのように改善すればよいか」を伝えましょう。また授業以外にも、英語で日記を書くこと、洋書を読むこと、英会話番組の視聴等、生徒が自主的に英語力を高められる方法を紹介しましょう。継続的な学習を促すために、例えば「英語学習カレンダー」をつくり、目標、計画、学習状況、振り返り等を記入させてもよいでしょう。

(3) 授業を多面的に評価しよう

自分自身の指導をさまざまな面から振り返りましょう。授業の成否や生徒の反応に一喜一憂するのではなく、実践を通して分かったことや気付いたことを今後の学習指導の改善に生かすことが何よりも大切です。授業中うまくいかなかったことについては、同僚の教師と相談し改善しましょう。さらに、チームとして同じ目標に向かうために、生徒にどのような学習をさせたらよいのかを話し合しましょう。

また、英語だけでなくさまざまな教科の授業を積極的に参観してもらい、授業力の向上を図りましょう。その際に、指示の出し方や話し方、授業の構成方法、要点のまとめ方、質問に答えられない生徒への対処の仕方など、どんなことでも吸収するつもりで参観に臨みましょう。

【関連資料：Learning Pyramid 学習定着率（アメリカ国立訓練研究所）】



Source: National Training Laboratories, Bethel, Maine

左図は、学習形態による「学習定着率」を表しています。

「他の生徒に教える（90%）」、「実際に体験する（75%）」、「討論をする（50%）」等の、学習者中心の学習形態が高い定着率を示しているのに対して、「講義」を聞いて学習した内容の定着率は非常に低い結果（5%）となっています。

これは、教師中心の講義型の学習形態よりも、学習者中心の参加型の学びの形態の方が、効果が高いことを裏付けるものです。言語活動を中心とした授業や、「主体的・対話的で深い学び」を目指した実践を推進する上で、重要な視点を示しています。

4 英語の授業を充実させるための Questions & Suggestions

Q1：授業は全て英語で行わないといけないのでしょうか。

教師が授業を英語で行うことは、生徒が英語に触れる機会を充実させるために必要なことです。使用する語彙や話すスピードなどに配慮し、生徒の理解度を確認しながら英語を使用するように心がけましょう。また、教師には生徒のロールモデルとしての役割が求められます。教師が英語を使う姿を示すことで、生徒も英語を使いたくなるような雰囲気をつくり、言語活動を活性化させる工夫をしましょう。文法事項の説明や複雑な指示の際に日本語を使用することも考えられますが、言語活動の支援に必要な程度にとどめましょう。

Q2：クラスの中には、英語が苦手な生徒やおとなしい生徒もいますが、全員の生徒を授業に積極的に参加させるためには、どのような工夫をすればよいのでしょうか。

まず、生徒の習熟度に応じたタスクを工夫したり、生徒が間違いを恐れずに安心して英語を話すことができる雰囲気をつくりましょう。次に、英語が苦手な生徒も取り組みやすいように、段階的な指導を心がけましょう。例えば、最初からクラス全体の前で発表させるのではなく、ペア・ワークや少人数のグループでの練習を繰り返すことで、自信をもって意見や考えを伝えやすくなるでしょう。また、グループ・ワークの際は、生徒一人一人に役割を与え、発言する機会を十分に確保するとともに、助け合い、学び合う効果を引き出しましょう。さらに、活動中の生徒の様子や成果に対して、褒めたりアドバイスをしたりといった、適切なフィードバックをすることや、生徒同士で相互評価させることにより、学習への動機付けを更に高めることができるでしょう。

Q3：言語活動やパフォーマンステストに充てる時間が十分に確保できませんが、どうしたらよいのでしょうか。

年間学習指導計画や単元構想を作成する際に、単元の目標や指導手順について、同僚の教師とよく相談するとともに、言語活動やパフォーマンステストの具体的な内容についても、計画の中に盛り込んでおきましょう。生徒の学習内容について「授業でしかできないこと」と「家庭でもできること」を整理し、授業での指導内容を精選することにより、言語活動やパフォーマンステストの時間の確保は可能になります。

Q4：コミュニケーション能力の育成を重視することによって、大学入試に対応できるのでしょうか。

授業を実際のコミュニケーションの場面とすることで、生徒の学習に取り組む姿勢が能動的になるだけでなく、言語活動を通して多くの語彙や表現に触れることができます。また、既習の語彙や表現の知識を活用しながら、教科書や資料等を読み進めることによって、情報処理能力や表現力が高まることが期待できます。こうして身に付けた英語力で、現行の大学入試や、4技能を評価する入試にも対応することができます。

Q5：小・中・高等学校における英語教育の連携は、今後どのようになるのでしょうか。

2020年度より、小学校3・4年生の「外国語活動」で「聞くこと」と「話すこと」を扱い、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力の育成を、5・6年生の「外国語」では「読むこと」と「書くこと」にも慣れ親しませ、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力の育成を目指します。中学校、高等学校では、授業は英語で行うことを基本とし、生徒のコミュニケーション能力を更に高めることが求められます。さらに、小中高の各学習段階における学習到達目標をCAN-DOリスト等で明確に示すことで、児童・生徒が学習を振り返ったり、見通しを立てて次の学びに向かったりすることができるような英語教育の連携が、今後ますます求められます。

【研修用課題・単元構想作成例】

〇〇年度高等学校初任者研修 英語科（ 月 日）資料

受講番号	●●●●●●●●	教科別番号	EG●●
------	----------	-------	------

コミュニケーション英語Ⅰ 単元ごとの指導と評価の計画（単元構想）

使用教材 教科書：〇〇〇 English CommunicationⅠ（〇〇社）

補助教材：Various Activities for Communication（〇〇.Co. Ltd.）

1 単元名

Lesson 〇〇〇（Part 〇～Part 〇）

2 単元の目標と言語活動

【単元の目標】

例：世界の挨拶について説明した文章を読み、その概要を理解するとともに、読み取った内容について、自分の考えを簡潔に表現することができる。

【言語活動】

例：・メモした内容を、グループ内の聞き手に伝えるように話す。
・挨拶について、自分の考えを2分程度で簡潔に述べる。

卒業時及び該当学年のCAN-DOを踏まえた「年間学習指導計画」に基づき、各単元の目標、言語活動、CAN-DOを設定します。

3 単元のCAN-DO（4技能ごとの学習到達目標の設定）

話すこと		書くこと		聞くこと		読むこと	
学習到達目標	評価方法	学習到達目標	評価方法	学習到達目標	評価方法	学習到達目標	評価方法
・簡単なメモを基に、グループ内の聞き手に伝えるように話すことができる。	・活動の観察 ・ワークシート	・挨拶について自分の感想や意見を100語程度で述べることができる。	・エッセイライティング	（本単元では設定しない）	（本単元では設定しない）	・世界の挨拶について説明した文章を読み、大意を把握することができる。	・ワークシート

1つの単元で、必ずしも4観点全てを評価する必要はないが年間を通して、4観点・4技能をバランスよく評価します。

4 単元の評価規準（4観点ごとの評価規準の設定）

評価の観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
評価規準	①ペア・ワークやグループ・ワークにおいて、互いに協力しながら会話を続けている。	①簡単なメモを基に、聞き手に伝えるように話すことができる。 ②挨拶について、自分の感想や意見を100語程度で述べることができる。	①世界の挨拶について説明した文章を読み、大意を把握することができる。	①動名詞や助動詞の基本的な使い方を理解している。 ②読んだ内容について、簡単な感想を述べるための表現を理解している。
内容のまとめ	①話すこと	①話すこと ②書くこと	①読むこと	①書くこと ②話すこと
評価方法	①活動の観察	①活動の観察、ワークシート ②エッセイライティング	①ワークシート	①定期考査 ②活動の観察

5 指導と評価の計画

時間	ねらい, 学習活動, 指導上の留意点	評価の観点	評価方法
1	<p>[ねらい] 本文全体を読み, ワークシートにある Vocabulary を参考にしながら, 大意を把握する。</p> <p>[学習活動]</p> <ol style="list-style-type: none"> 単元内容の背景となる知識を活性化する。 <ul style="list-style-type: none"> 教師による oral introduction ワークシートの Warm-up questions とそれに伴う ペア・ワーク 本文を読み, ワークシートにある質問に答える。 ペアで Q&A を行い, 内容を確認する。 <p>[指導上の留意点]</p> <ul style="list-style-type: none"> 活動2の大意把握は, 内容に関する質問を2択とし, 取り組みやすい形にする。 活動2では, 読み取るべきポイントを精選して提示し, 必要な情報の取得 (scanning) が目的であることを理解させる。 未知の語句の意味を推測しながら読み進めることにも慣れさせる。 今後行うグループ・ワークで話し合った内容を参考に, 単元のまとめとして, 挨拶について自分の感想や意見を100語程度で書くことを伝える。 	理解 関心・意欲・態度	ワークシート 活動の観察
2 ～ 4	<p>[ねらい] 各セクション (§1～§3) の内容を口頭で要約し, それに対する感想や意見を伝える。</p> <p>[学習活動]</p> <ol style="list-style-type: none"> 本文を音読する (文字と音を一致させる)。 Q&A により内容を把握する。 単語, 連語等の意味や発音を確認する。 動名詞や助動詞の基本的な使い方を理解する。 音読練習をする (文字と音と意味を一致させる)。 読んだ内容について, 簡単なメモをもとに口頭で要約する。 (パートを半分に分け, ペアで行う。) 読んだ内容について, グループで感想や意見を伝え合う。 <p>[指導上の留意点]</p> <ul style="list-style-type: none"> 活動4では文法用語の説明や問題の答え合わせにならないように注意し, 使う場面を意識させながら行う。 	理解 知識・理解 表現 表現	ワークシート 定期考査 (後日) 活動の観察 ワークシート 活動の観察 ワークシート
5	<p>[ねらい] 挨拶について, 自分の感想や意見を100語程度で述べる。</p> <p>[学習活動]</p> <ol style="list-style-type: none"> 与えられたテーマについて, 100語程度で書く。(グループ・ワークで話し合った内容も参考にしてい)。 	表現	エッセイライティング (後日)

【研修用課題・学習指導案作成例】

〇〇年度高等学校初任者研修 英語科（ 月 日）資料

受講番号	●●●●●●●●	教科別番号	EG●●
------	----------	-------	------

「〇〇（科目名）」学習指導案

愛知県立〇〇高等学校
教諭 〇〇〇

1 日時・実施場所

年 月 日（ ） 第 限（ : ~ : ）

〇〇教室

＜注意＞ センターの研修では記入しません。

2 学級

科 第 学年 組（男子 名，女子 名，計 名）

3 学級観

学級の特徴とともに、指導により目指す生徒像、期待される変容、目標達成に向けた見通しを記述します。

4 教材

(1) 教科書（教科書名）（出版社名）

単元名 Lesson

（該当箇所 例：Part pp. ~ ）

(2) 副教材（教材名）（出版社名）

5 単元の目標

「年間学習指導計画」と連動させます。

世界の挨拶について説明した文章を読み、その概要を理解するとともに、読み取った内容について、自分の考えを簡潔に表現することができる。

6 単元の評価規準（4観点ごとの評価規準の設定）

「年間学習指導計画」と連動させます。

単元の目標が達成されているかを評価する「規準」を設定します。（評価「基準」との違いに注意！！）
「5 単元の目標」で記述した内容がどの観点に対応するかを整理し、「外国語表現の能力」及び「外国語理解の能力」についてはCAN-DOの形式（「～することができる／できている」）で記述します。
数値を盛り込むなど、より具体的に設定するように工夫します。

評価の観点	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
評価規準	①ペア・ワークやグループ・ワークにおいて、互いに協力しながら会話を続けている。	①簡単なメモを基に、聞き手に伝わるように話すことができる。 ②挨拶について、自分の感想や意見を100語程度で述べるることができる。	①世界の挨拶について説明した文章を読み、大意を把握することができる。	①動名詞や助動詞の基本的な使い方を理解している。 ②読んだ内容について、簡単な感想を述べるための表現を理解している。
内容の まとめ	①話すこと	①話すこと ②書くこと	①読むこと	①書くこと ②話すこと
評価方法	①活動の観察	①活動の観察，ワークシート ②エッセイライティング	①ワークシート	①定期考査 ②活動の観察

7 単元の指導計画

指導内容	配当時間
教科書中の写真や地図、オーラル・イントロダクション等を利用して、単元の内容について背景知識を高めるとともに、本文全体を速読したりCDを聞いたりして概要を捉える。	1時間
世界の挨拶について説明した文章を読み、大意を把握するとともに口頭で要約し、感想や意見を伝え合う。	3時間 (本時2時間目)
挨拶について、自分の感想や意見を100語程度で述べる。	1時間

**単元の評価規準を達成するための、その授業における目標を設定します。
1時間に盛り込みすぎず、年間を通してバランスよく設定するようにします。**

8 本時の目標

- (1) ペア・ワークやグループ・ワークに積極的に参加し、自分の考えなどを主体的に話す。
- (2) 挨拶について、自分の考えを2～3文程度の英語で相手に伝える。
- (3) 挨拶の効用やその理由などを捉えることを通じ、本文の概要や要点を理解する。
- (4) 読んだ内容について、賛否や簡単な感想を述べるための表現の使い方を理解する。

本時の目標に基づいて観点別の評価規準を設定します。記入方法は、「6 単元の評価規準」に準じます。

9 本時の評価規準

評価の観点	1. コミュニケーションへの関心・意欲・態度	2. 外国語表現の能力	3. 外国語理解の能力	4. 言語や文化についての知識・理解
評価規準	①ペア・ワークやグループ・ワークに積極的に参加し、自分の考えなどを主体的に話している。	①挨拶について、読んだ内容や自分の感想、意見を2～3文程度の英語で相手に伝えることができる。	①挨拶の効用やその理由などを捉えることを通じ、本文の概要や要点を理解することができる。	①読んだ内容について賛否や簡単な感想を述べるための表現の使い方を理解している。
内容のまとめ	①話すこと	①話すこと	①読むこと	①話すこと
評価方法	①活動の観察	①活動の観察、ワークシート	①ワークシート	①活動の観察、筆記テスト（後日）

10 本時の展開（「主な評価の観点」の（ ）内の数字は、「9. 本時の評価規準」における四つの「評価の観点」を示す）

時間	指導過程	生徒の学習活動	教師の活動及び指導上の留意点	主な評価の観点	評価方法
5分	○Small Talk 一週末の予定（ペア・ワーク）ー	・週末の予定をペアで1分間伝え合う。 ・代表生徒がクラス全体に発表する。	・「会話を続けるための表現集」を使って、会話が続くよう促し、必要に応じて支援する。 ・数名の生徒を指名し、クラス全体で共有する。	・聞いたことについて簡単な言葉で反応したり、間違っていることを恐れず話したりしているか。（1）	活動の観察
3分	1. 音読① (文字と音を一致させる。)	・文字（綴り）を見て発音できるように音読する。	・発音の難しい語句は繰り返し発音するなど、文字（綴り）を見て発音できるように指導する。	・積極的に声を出して音読しているか。（1）	活動の観察
8分	2. 内容把握 (Q&A)	・教師の質問に英語で答えながら、本文の内容を理解する。	・必要に応じて写真や地図を用いて、内容を理解させる。	教師の質問に適切に答えているか。（3）	ワークシート

時間	指導過程	生徒の学習活動	教師の活動 及び 指導上の留意点	主な評価の観点	評価方法
5分	3. 単語, 連語等の意味と発音の確認	・内容を理解する上で大切な単語, 連語等の意味を理解し, 発音できるようにする。	・生徒とインタラク션을行いながら進める。		
5分	4. 動名詞, 助動詞の用法の理解	・動名詞, 助動詞の基本的な使い方を理解する。	・使う場面を示し, 英語で表現させながら使い方を理解させる。	・動名詞, 助動詞の基本的な使い方を理解しているか。(4)	筆記テスト(後日)
4分	5. 音読② Repeating Buzz reading Overlapping	・意味内容が聞き手に伝わるように音読する。	・意味内容が相手に伝わるよう, 強調すべき語(句)や話す速度・声の大きさなどに注意するよう指導する。	・意味内容が聞き手に伝わるよう音読しているか。(2)	活動の観察
5分	6. 要約	・本文の内容を簡単にメモし, そのメモを基に本文を要約して相手に伝える。 ・要約をワークシートに記入する。	・メモは日本語でもよいこととする。 ・パートを半分に分け, ペアで行う。	・メモを基にして積極的に相手に伝えようとしているか。(1)	活動の観察
10分	7. ディスカッション	・読んだ内容について, グループで感想や意見を伝え合う。 ・4人1グループになり, 司会の生徒が, 他の生徒の考えを要約しながら話し合いを進める。また, グループや役割を変えて, 複数回行う。 ・自分の考えを話す際は, 本単元で学習した以下の文法事項や表現などを積極的に活用する。	・自分の考えとその理由を伝えられるよう指導する。 ・「会話を続けるための表現集」を使って, 活発に話し合うように促す。 ・相手に自分の考えが伝わるよう, 話す速度や声の大きさなどに注意を促す。 ・本単元で学習した文法事項やイディオムなどの用法を, 適宜例示しながら指導する。	・賛否や簡単な感想を述べるための表現の使い方を理解しているか。(4)	活動の観察
4分	8. Report	・ディスカッションで出した自分の考えをクラス全体に伝える。	・数名の生徒に発表させるとともに, 出された考えについてクラス全体にフィードバックする。	自分の考えを相手に伝わるように話しているか。(2)	活動の観察 ワークシート
1分	○本時のまとめ		・肯定的なコメントを心がけ, 適切なフィードバックを与えるようにする。		

「指導過程」では, 展開の流れが分かるように簡潔に記述します。
「生徒の学習活動」では生徒の言語活動がどのように展開するのか, 具体的に記述します。
「教師の活動及び指導上の留意点」では生徒への指示や指導上の配慮事項などを記述します。
「主な評価の観点」は, 「9 本時の評価規準」の観点との対応を示します。
「評価方法」は, 後日行うインタビューテストやライティングテストなどを設定することもできます。
※全ての指導過程を評価の対象とする必要はありません。

5 授業実践例

学習到達目標の達成に向けて、単元構想において、段階的な指導手順や、身に付けた力の評価・振り返りの方法が示されています。

【実践1：コミュニケーション英語Ⅰ】

単元ごとの指導と評価の計画（単元構想）

使用教材 教科書： English Communication I (出版)

1 単元名

Lesson _____

2 単元の目標と言語活動

【単元の目標】

冒険家であり写真家でもある _____ 氏の活動に関する英文を読み、彼のインド旅行やエベレストへの挑戦を通して、世界に目を向けることの大切さを学ぶ。また彼の活動を自らに置き換えて考え、単元の最後には、興味のある国についてのエッセイを英語でまとめ、プレゼンテーションの形式で発表することができる。

【言語活動】

- ・教科書の内容について、理解を確かめるための問題にペアで取り組む。
- ・教科書の内容に関する、答えが一つに限定されない問題について、ペアでやり取りする。
- ・まとめとして、興味のある国についてグループ内でプレゼンテーションの形式で発表し合う。

3 単元のCAN-DO（4技能ごとの学習到達目標の設定）

「CAN-DO リスト (p. 22)」に対応させています。

話すこと		書くこと		聞くこと		読むこと	
学習到達目標	評価方法	学習到達目標	評価方法	学習到達目標	評価方法	学習到達目標	評価方法
・教科書の内容に関する問いに対して、要点を明確にして相手に伝えることができる。	・活動の観察	・興味のある国について50語程度の英語でまとめ、プレゼンテーションをすることができる。	・プレゼンテーション	・言語活動において相手の話を聞き、自分の意見との違いを理解することができる。	・活動の観察	・本文で使用されている英語表現を理解し、大意を把握することができる。	・タスクシート

4 単元の評価規準（4観点ごとの評価規準の設定）

評価の観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
評価規準	①聞き手の気持ちを考えながら、ペア・ワークやグループ・ワークで積極的に意思の伝達を図ろうとしている。 ②発話者の話を理解しようとする態度が見られる。	①教科書の内容に関する問いに対して、要点を明確にして相手に伝えることができる。 ②興味のある国について、50語程度の英語でまとめプレゼンテーションをすることができる。	①言語活動において相手の話を聞き、自分の意見との違いを理解することができる。 ②本文で使用されている英語表現を理解し、大意を把握することができる。	①関係代名詞 what と分詞の形容詞的用法の基本的な使い方を理解している。 ②読んだ内容について感想を述べるための表現を理解している。
内容のまとめ	①話すこと ②聞くこと	①話すこと ②書くこと	①聞くこと ②読むこと	①②書くこと
評価方法	①②活動の観察	①活動の観察 ②プレゼンテーション	①活動の観察 ②タスクシート	①②定期考査

5 指導と評価の計画

必ずペアや相手を意識して言語活動を行うために、タスクシート (p.19~p.21) が工夫されています。

時間	ねらい, 学習活動, 指導上の留意点	評価の観点	評価方法
1 ～ 4	<p>[ねらい] 各パートの大意を把握するとともに、登場人物の行動や心情について考察する。 各パートに関わる内容について意見交換や発表を行う。</p> <p>[学習活動] 予習として、本文の各パートをよく読んでくることが課せられている。</p> <p>1. タスクシートの問1 (p.19) で、本文の要約ができるかをペアで確認する。その後クラス全体で正解を確認する。</p> <p>2. タスクシートの問2 (p.19) で、本文全体の内容が理解できているかをペアで確認する。その後クラス全体で正解を確認する。</p> <p>3. タスクシートの問3 (p.19-p.20) で、本文中の英文をより分かりやすい表現を用いて書き換え、数名の生徒が発表する。英文をさまざまな表現を用いてパラフレーズできることを理解する。</p> <p>4. 教師の後に続いてクラス全体で音読する。その後、ペアで交互に読み合い、音読練習をする。</p> <p>5. タスクシートの問4 (p.20) で、本文の内容理解を確認する。ペアで英語で質問し合い、相手が答えた内容を書き取る形で進める。その後、クラス全体で正解を確認する。</p> <p>6. タスクシートの問5 (p.20) で、本文の内容に関して英語で自分の意見を述べ、ペアで意見交換をする。その際に、相手の意見をきちんと聞き、自分の英語で相手の意見をまとめる。その後、クラス全体で意見を発表し合う。</p> <p>7. タスクシートの自己評価 (p.21) を用いて、振り返りをする。</p> <p>[指導上の留意点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (活動3) さまざまな表現の仕方があることを伝える。できる限り分かりやすい表現を用いて、コミュニケーションの際に、相手が理解できるように書くよう指導する。 ・ (活動4) ペアでの音読は1文ずつ交互に読み、自分の発話だけでなく、相手の発話に耳を傾けることも重要であることを伝える。 ・ (活動5) ペアで互いに質問し合いながら内容を確認させる。日本語を使わずに、英問英答を続けるように促す。 	<p>理解②</p> <p>理解②</p> <p>表現①</p> <p>関心・意欲・態度①</p> <p>表現①</p> <p>理解①</p>	<p>タスクシート</p> <p>タスクシート</p> <p>活動の観察</p> <p>活動の観察</p> <p>活動の観察</p> <p>活動の観察</p>

時間	ねらい, 学習活動, 指導上の留意点	評価の観点	評価方法
	<p>・ (活動6) 答えが一つに限定されない問いであることを伝える。できる限り分かりやすい表現を用いて, ゆっくりと大きな声で丁寧に意見を伝えるように促す。また, 相手の意見を聞いた後で, 自分の言葉でまとめ直すことの大切さを強調する。</p>		
5	<p>[ねらい] パート1からパート4までの内容と, ポイントとなる英語表現を理解する。</p> <p>[学習活動] 予習として, 教科書の Route Map, Summary, Key Language, Exercises を学習することが課せられている。</p> <p>1. Lesson 3 パート1からパート4までの内容の整理と要約を行う。 Route Map, Summary の内容をペアで確認し合い, その後, クラス全体で正解を確認する。</p> <p>2. 本単元で新たに学習する文法事項について, Key Language の例文を参考にしながら確認し, コミュニケーション活動で実際に使えるように指導する。 (a) 関係代名詞 who / that / which / whose / whom / what (b) 分詞の形容詞的用法</p> <p>3. Exercises で, 本単元で学習する重要単語を確認し, まとめとして自由英作文に取り組む。</p> <p>[指導上の留意点] ・ (活動2) 文法事項の説明については, 細かな部分までは説明せずに, 教科書本文の理解とコミュニケーションに必要な程度にとどめておく。また次回以降のコミュニケーション活動で, 学んだことを積極的に生かせるよう指導する。 ・ (活動3) 自由英作文にはさまざまな正解があることを理解させるとともに, 文法的な細かい間違いを気にしないように指導する。自由英作文を生徒に発表させる場を設ける。</p>	<p>表現①</p> <p>知識・理解①</p> <p>知識・理解②</p>	<p>活動の観察</p> <p>定期考査 (後日)</p> <p>定期考査 (後日)</p>
6	<p>[ねらい] 単元の内容に沿ったテーマでプレゼンテーションを行う。各パートで学習した内容を踏まえ, 自分の意見を相手に伝えることを通してコミュニケーション能力を高める。</p> <p>[学習活動] 予習としてまとめのタスクシート (p.21) を使い, 英語の原稿を仕上げることが課せられている。インターネットや書籍などを使い, 調べ学習を行うことが奨励される。</p> <p>1. 課題で作成したプレゼンテーションの原稿をペアで交換し, 互いの原稿を読み合う。次に, 互いの原稿について意見交換をし, 修正を加えることで, 更により原稿に仕上げる。</p>	<p>関心・意欲・態度①</p>	<p>活動の観察</p>

ねらい, 学習活動, 指導上の留意点		評価の観点	評価方法
2. 8名のグループを五つ作り, 各グループで司会者を選ぶ。 3. 司会者の進行により, グループ内で順番に発表する。タスクシート (p.21) にグループ全員のプレゼンテーションの要約を英語で記入する。 4. グループの代表者を1名決める。グループ・ワークで代表者の原稿に更に修正を加え, 発表原稿を完成させる。 5. グループの代表者は, クラス全体の前でプレゼンテーションを発表する。		表現② 関心・意欲・態度② 理解①	プレゼンテーション 活動の観察 活動の観察
[指導上の留意点] ・ (活動1) ペアの生徒の意見を積極的に取り入れて, 原稿を修正させる。 ・ (活動3) 書いた英文を, 相手に伝わりやすく話すことを意識させる。また, 他の生徒の発表をしっかりと聞くよう指導する。ルーブリックを使用してプレゼンテーションの発表の評価と聞く態度の評価を行う。 ・ (活動5) グループの代表として自信をもって発表できるように指導する。		表現②	プレゼンテーション ルーブリック

Lesson 3 プレゼンテーション評価基準表 (ルーブリック)

評価の観点	評価規準	基準			評価 (得点)
		A (3点)	B (2点)	C (1点)	
外国語表現の能力	興味のある国について50語程度の英語でまとめ、プレゼンテーションをすることができる。(分量)	自分の意見が50語以上で述べられ、さらに内容にふさわしい分量である。	自分の意見が50語以上である。	自分の意見が50語に満たない分量である。	
外国語表現の能力	興味のある国について50語程度の英語でまとめ、プレゼンテーションをすることができる。(デリバリー)	声の大きさやアイコンタクトなどに注意をして、言いたいことを伝えようとしている。	相手のことを考えて発話している。	自分のペースで発話している。	
外国語表現の能力	教科書本文に関する問いに対して、要点を明確にして相手に伝えることができる。(構成)	相手に分かりやすく順序立てて構成されている。	順序立てて構成されている。	論理的な構成に欠ける。	
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	発話者の話を理解しようとする態度が見られる。(態度)	相手の伝えたいことを理解しようとする態度が非常によく見て取れる。	相手の伝えたいことを理解しようとする態度が見て取れる。	相手の伝えたいことを理解しようとする態度があまり見て取れない。	
外国語理解の能力	言語活動において相手の話を聞き、自分の意見との違いを理解することができる。(理解)	相手の伝えたいことがしっかりと理解できている。	相手の伝えたいこととおおむね理解できている。	相手の伝えたいことがあまり理解できていない。	

ルーブリックに「評価の観点」を盛り込むことで、学習到達目標と一貫性をもたせる工夫をしています。

8 本時の目標

- (1) ペア・ワークやグループ・ワークに積極的に参加し、意思の伝達を図る。
- (2) 興味のある国について、まとまりのある英語でプレゼンテーションを行う。
- (3) 英語によるプレゼンテーションの発表を聞いて、内容を理解する。

9 本時の評価規準

評価の観点	1. コミュニケーションへの関心・意欲・態度	2. 外国語表現の能力	3. 外国語理解の能力	4. 言語や文化についての知識・理解
評価規準	①聞き手の気持ちを考えながら、ペア・ワークやグループ・ワークで積極的に意思の伝達を図ろうとしている。 ②発話者の話を理解しようとする態度が見られる。	①興味のある国について50語程度の英語でまとめ、プレゼンテーションをすることができる。	①言語活動において相手の話を聞き、自分の意見との違いを理解することができる。	(本時は設定しない)
内容のまとまり	①話すこと ②聞くこと	①書くこと	①聞くこと	
評価方法	①②活動の観察	①プレゼンテーション	①活動の観察	

10 本時の展開 (「主な評価の観点」の()内の数字は、「9. 本時の評価規準」における四つの「評価の観点」を示す。)

時間	指導過程	生徒の学習活動	教師の活動 及び 指導上の留意点	主な評価の観点	評価方法
5分	1. ペア・ワーク	・課題で作成したプレゼンテーションの原稿をペアで交換し、互いの原稿を読み合う。次に、互いの原稿について意見交換をし、修正を加えることで、更によい原稿に仕上げる。	・ペアの生徒の意見を積極的に取り入れ、原稿を修正させる。	・聞き手の気持ちを考えながら、ペア・ワークやグループ・ワークで積極的に意思の伝達を図ろうとしている。(1)	活動の観察
2分	2. 司会者の選定	・8名のグループを五つ作り、各グループで司会者を選ぶ。			
30分	3. プレゼンテーション	・司会者の進行により、グループ内で順番に発表する。	・書いた英文を、相手に伝わりやすく話すことを意識させる。また、評価基準表(ループリック)を使用してプレゼンテーションの発表の評価を行う。	・興味のある国について50語程度の英語でまとめ、プレゼンテーションの形で発表することができる。(2)	プレゼンテーション ループリック

時間	指導過程	生徒の学習活動	教師の活動 及び 指導上の留意点	主な評価の観点	評価方法
		・タスクシート (p.21) にグループ全員のプレゼンテーションの要約を英語で記入する。	・他の生徒の発表を しっかり聞くよう指導する。また評価基準表 (p.16) を使用してプレゼンテーションを聞く態度を評価する。	・発話者の話を理解しようとする態度が見られる。 (1) ・言語活動において相手の話を聞き、自分の意見との違いを理解することができる。 (3)	活動の観察 活動の観察
3分	4. 代表者の選定	・グループの代表者を1名決める。グループワークで代表者の原稿に更に修正を加え、発表原稿を完成させる。			
10分	5. プレゼンテーション	・グループの代表者は、クラス全体の前でプレゼンテーションを発表する。	・グループの代表として意欲的に発表できるよう指導する。	・興味のある国について50語程度の英語でまとめ、プレゼンテーションの形で発表することができる。 (2)	プレゼンテーション グループワーク

～ ～ ～ ～ ～ Lesson 3 part 4 タスクシート ～ ～ ～ ～ ～

1 Fill in the blanks to make the outline of this part.

- (1) In 2001, Mr. _____ was at the () of Mt. Everest, the world's () peak. He also climbed all the other () of the Seven Summits. He looked around and there was () higher anywhere.
- (2) He continued to travel and he became well-known as an adventurer, but also he was known as a (). Mr. _____ said, "There are still so many () I haven't been to and haven't ()."

2 Answer true or false for the following sentences.

- a. Mt. Everest is the world's highest mountain. []
- b. Mr. _____ climbed Mt. Everest in 2000. []
- c. He stopped traveling after climbing Mt. Everest and became a photographer. []
- d. He had an interview in 2010. []

相手に伝わりやすく表現するためのステップになっています。

3 Put the English phrases in this part into easier expressions.

- (1) There was nowhere higher anywhere on the planet.

→ _____

→ _____

→ _____

(2) Mr. continues to travel.

→ _____
→ _____
→ _____

(3) There are still so many places I haven't been to.

→ _____
→ _____
→ _____

4 Answer the questions about the story.

(1) How did Mr. feel at the top of Mt. Everest?

Your answer _____

Your partner's answer _____

Answer _____

(2) What did Mr. say in an interview?

Your answer _____

Your partner's answer _____

Answer _____

5 Answer the questions below.

(1) Do you want to climb a high mountain? Why or why not?

Your idea _____

Your partner's idea _____

Other members' ideas _____

(2) Why does he climb a lot of mountains?

Your idea _____

Your partner's idea _____

Other members' ideas _____

(3) Which place do you think Mr. will visit next?

Your idea _____

Your partner's idea _____

Other members' ideas _____

生徒の様子や実態に応じて、3～5段階の基準を示しましょう。

6 自己評価

タスクの完了	タスクを時間内に完了することができたか。	A ・ B ・ C ・ D ・ E
コミュニケーションの継続	相手のことを理解しようとし、自分のことを理解してもらおうとした。	A ・ B ・ C ・ D ・ E
自分の発話の正確さ	英語の間違いにとらわれず、自分の伝えたいことを相手に理解してもらえたか。	A ・ B ・ C ・ D ・ E
相手の発話の理解	英語の間違いにとらわれずに、相手の伝えたいことを理解することができたか。	A ・ B ・ C ・ D ・ E

～ ～ ～ ～ ～ Lesson 3 まとめ タスクシート ～ ～ ～ ～ ～

1 Search on the Internet and books for a country you would like to visit, give a presentation to group members.

Which country would you like to visit?

Where is the place of the country?

What are good points?

2 Make your presentation.

3 Write down other members' presentations.

A
B
C
D
E

「単元のCAN-DO」(p.13)について自己評価させます。

4 単元の自己評価 (単元のCAN-DO)

話すこと	教科書本文に関する問いに対して、要点を明確にして相手に伝えることができる。	A・B・C・D・E
書くこと	興味のある外国について50語程度の英語でまとめ、プレゼンテーションの形で発表することができる。	A・B・C・D・E
聞くこと	言語活動において相手の話を聞き、自分の意見との違いを理解することができる。	A・B・C・D・E
読むこと	本文で使用されている英語表現を理解し、大意を把握することができる。	A・B・C・D・E

<実践1 CAN-DOリスト>

卒業時の目標	英語を通じて、場面や状況、背景、相手の表情や反応などを踏まえて、話し手や書き手の伝えたいことを的確に理解するとともに、自分が伝えたいことを適切に伝えることができる。				
	外国語表現の能力		外国語理解の能力		
3年生	【履修科目】	コミュニケーション英語Ⅲ, 英語表現Ⅱ			
		話すこと	書くこと	聞くこと	読むこと
	学習到達目標	人文・社会・自然科学の分野について、平易な言葉を用い、自分の考えを論理的に話したり、相手に適切に伝わるように正確に表現したりすることができる。	時事問題など幅広く社会に関係したテーマに関する自分の考えを、論理的な段落構成を意識しながら100語程度で書くことができる。	時事問題など幅広く社会に関係した内容についての情報や説明を聞き取って、要点を的確に理解することができる。	論理性のある説明文などを中心に、専門的な分野の初見の英文を読んで、大筋の内容を的確に理解できる。 自分が必要とする情報を、英文の中から短い時間で的確に探し出すことができる。
2年生	【履修科目】	コミュニケーション英語Ⅱ, 英語表現Ⅱ			
		話すこと	書くこと	聞くこと	読むこと
	学習到達目標	家庭や学校における身近な話題について、平易な言葉と正確な文法を用いて、自分の考えを話したり、説明や理由を付けながら意見の交換をしたりすることができる。	人文・社会・自然科学の分野など日常生活から踏み込んだ内容に関する自分の考えやその根拠について、80語程度で書くことができる。	日常生活に関する話や説明を聞いて概要を聞き取ったり、相手からの指示を的確に理解したりすることができる。	人文・社会・自然科学の分野などに関する初見の英文を読んで、大筋の内容を的確に理解できる。 自分が必要とする情報を、英文の中から効率よく探し出すことができる。
1年生	【履修科目】	コミュニケーション英語Ⅰ, 英語表現Ⅰ			
		話すこと	書くこと	聞くこと	読むこと
	学習到達目標	家庭や学校における身近な話題について、聞き手を意識しながら、文法的な間違いを恐れずに会話をしたり、説明や理由を付けながら意見の交換をしたりすることができる。	家庭や学校生活などの日常生活の中で聞いたり読んだりしたこと、学んだことや体験したこと、その概要や要点、その話題に関する意見やその理由を50語程度で書くことができる。	家庭や学校における身近な話題についての情報や説明を聞き取ったり、相手からの指示を理解したりすることができる。	環境・文化・習慣などの身近な話題に関する初見の英文を読んで、大筋の内容を理解できる。 自分が必要とする情報を、英文の中から探し出すことができる。

学習到達目標の達成に向けて、指導過程（p. 26）の中で、自分の意見を含めた口頭要約をペアでさせた後に、要約文を書かせ、その後に要約を伝え合うという、段階を踏んだ手順に工夫が見られます。

【実践2：コミュニケーション英語Ⅱ】

単元ごとの指導と評価の計画（単元構想）

使用教材 教科書：_____ Communication Ⅱ（_____ 出版）

1 単元名 Lesson

2 単元の目標と言語活動

【単元の目標】

アイスランドについての文を読み、その概要を理解するとともに、読み取った内容について自分の考えを簡潔に表現することができる。

【言語活動】

- ・本文に関連した内容について、ペアで質問や応答をする。
- ・自分の行きたい国について詳しく調べて発表し、質疑応答や話し合いを行う。

3 単元のCAN-DO（4技能ごとの学習到達目標の設定）

話すこと		書くこと		聞くこと		読むこと	
学習到達目標	評価方法	学習到達目標	評価方法	学習到達目標	評価方法	学習到達目標	評価方法
・自分の行きたい国について聞き手に伝わるように話すことができる。	・活動の観察 ・ワークシート	・自分の行きたい国について、60語程度の英語で書くことができる。	・エッセイライティング	・相手の意見を聞き、まとめることができる。	・活動の観察 ・ワークシート	・アイスランドに関する英文を読み、大意を理解することができる。	・ワークシート

4 単元の評価規準（4観点ごとの評価規準の設定）

評価の観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
評価規準	①ペア・ワークやグループ・ワークにおいて、互いに協力しながら会話を続けている。	①自分の行きたい国について聞き手に伝わるように話すことができる。 ②自分の行きたい国について、60語程度の英語で書くことができる。	①相手の意見を聞き、まとめることができる。 ②アイスランドに関する英文を読み、大意を理解することができる。	①不定詞や動名詞の基本的な用法を理解している。 ②読んだ内容について、簡単な感想を述べるための表現を理解している。
内容のまとめ	①話すこと、聞くこと	①話すこと ②書くこと	①聞くこと ②読むこと	①②書くこと
評価方法	①活動の観察	①活動の観察、ワークシート ②エッセイライティング	①活動の観察、ワークシート ②ワークシート	①②ワークシート、定期考査

5 指導と評価の計画

時間	ねらい, 学習活動, 指導上の留意点	評価の観点	評価方法
1 ～ 14	<p>[ねらい] 本文の大意を把握し, 英語で要約と感想を述べる。</p> <p>[学習活動]</p> <ol style="list-style-type: none"> 教科書の図・写真についての考えを英語で述べ合う。 本文を読み, ワークシートの“gist”の設問に答える。 新出単語・イディオムを学習し, 日本語から英語への自動化を図る。 本文を音読する。 本文の内容を整理し, 理解を確認する。 本文の内容に関する問いに対して, 自分の意見を述べる。 本文の内容理解を確認する問いに答える。 文法問題に取り組み, その文法事項を使って自分の意見を述べる。 本文を音読した後, 英語で要約する。 グループで与えられたトピックについて話す。 <p>[指導上の留意点]</p> <ul style="list-style-type: none"> 活動1, 6, 10は自分の考えを英語で述べることにねらいがあり, 「正解はない」と伝えることで, 安心して積極的に話せるように指導する。 【ワークシート p. 27-p. 29 [1] [5] [11]】 活動2の大意把握は, 内容に関する質問を3択とし, 取り組みやすい形にする。 活動3と4では, 意味だけでなく音声にも注目させ, 大きな声ではっきり伝わるように発音の練習をさせる。 活動5は, 本文の概要を表形式で整理しながら, 理解を深めさせることにねらいがあり, ワードマッチングのような形にならないように注意する。 【ワークシート p. 27-p. 28 [5]】 活動8は, 学習した文法事項を用いて, 意見を伝え合うように促す。 【ワークシート p. 29 [10]】 	<p>関心・意欲 ・態度</p> <p>理解②</p> <p>知識・理解②</p> <p>理解②</p> <p>関心・意欲 ・態度</p> <p>理解②</p> <p>知識・理解①</p> <p>理解②</p> <p>関心・意欲 ・態度</p>	<p>活動の観察</p> <p>ワークシート</p> <p>ワークシート</p> <p>ワークシート</p> <p>活動の観察</p> <p>ワークシート</p> <p>ワークシート</p> <p>活動の観察</p> <p>ワークシート</p> <p>ワークシート</p> <p>活動の観察</p>
15 ～ 16	<p>[ねらい] 自分の行きたい国について60語程度の英語でまとめ, 発表する。</p> <p>[学習活動]</p> <ol style="list-style-type: none"> 調べた内容を基に, 自分の意見を英語で書く。 グループ内で発表し, また他の生徒の発表を聞いてコメントをする。 各グループの代表が, クラス全体の前で発表する。 	<p>表現②</p> <p>関心・意欲 ・態度</p>	<p>エッセイライティング</p> <p>活動の観察</p>

「コミュニケーション英語Ⅱ」学習指導案

1 日時・実施場所

2 学級 科 第 学年 組 (男子 名, 女子 名, 計 名)

3 学級観

英語や外国の文化に興味、関心をもつ生徒が多い。自分の意見を表現したいが、英語表現が分からない生徒も多いので、生徒が自信をもって英語で表現できるようにサポートする必要がある。

4 教材

教科書 _____ Communication II (_____ 出版)

単元名 Lesson

5 単元の目標

アイスランドについて説明した文章を読み、その概要を理解するとともに、読み取った内容について自分の考えを簡潔に表現することができる。

6 単元の評価規準

評価の観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
評価規準	①ペア・ワークやグループ・ワークにおいて、互いに協力しながら会話を続けている。	①自分の行きたい国について聞き手に伝わるように話すことができる。 ②自分の行きたい国について、60語程度の英語で書くことができる。	①相手の意見を聞き、まとめることができる。 ②アイスランドに関する英文を読み、大意を理解することができる。	①不定詞や動名詞の基本的な用法を理解している。 ②読んだ内容について、簡単な感想を述べるための表現を理解している。
内容のまとめ	①話すこと、聞くこと	①話すこと ②書くこと	①聞くこと ②読むこと	①②書くこと
評価方法	①活動の観察	①活動の観察、ワークシート ②エッセイライティング	①活動の観察、ワークシート ②ワークシート	①②ワークシート、定期考査

7 単元の指導計画

指導内容	配当時間
本文の大意を把握し、英語で要約と感想を述べる。	14 時間 (本時13時間目)
自分の行きたい国について、60語程度の英語でまとめ発表する。	2 時間

8 本時の目標

- (1) ペア・ワークに積極的に参加し、相手の考えを聞いたり自分の考えを話したりする。
- (2) 前回学習した内容について、その概要と自分の意見を英語で相手に伝え、その内容を英語でまとめて書く。

9 本時の評価規準

評価の観点	1. コミュニケーションへの関心・意欲・態度	2. 外国語表現の能力	3. 外国語理解の能力	4. 言語や文化についての知識・理解
評価規準	①ペア・ワークに積極的に参加し、相手の考えを聞いたり自分の考えを話したりしている。	①本文の内容について、その概要と自分の意見を英語で相手に伝え、その内容を英語でまとめて書くことができる。	①本文の概要や要点を理解することができる。	(本時は設定しない)
内容のまとめ	①話すこと、聞くこと	①話すこと、書くこと	①読むこと	
評価方法	①活動の観察	①ワークシート	①ワークシート	

10 本時の展開 (「主な評価の観点」の()内の数字は、「9. 本時の評価規準」における四つの「評価の観点」を示す。)

時間	指導過程	生徒の学習活動	教師の活動 及び 指導上の留意点	主な 評価の観点	評価 方法
1分	Greeting	・挨拶をする。 ・教科書を開く。	・よい雰囲気です スタートさせる。		
5分	1. Review (音読) Shadowing Pair reading Overlapping	・意味内容を考えて音読 する。	・意味内容が相手に 伝わるように声の大 きさや発音に注意す るように指導する。		
5分	2. Read and Look up (重要表現を定着させ る)	・重要な5文を、テキス トを見ずに音読でき るまで練習する。	・発音の正確さや声 の大きさに注意を促 す。		
25分	3. Retelling 内容把握 Q&A 口頭要約 ライティング	・各グループで教師の質 問に答える。 ・掲示されたキーワード と絵を参考にペアで口 頭要約し、自分の意見 を付け足す。 ・相手に伝えた内容を ワークシートに書く。 ・書いた語数をカウント する。 ・代表生徒2名が要約文 を発表する。	・各生徒のつまずき に応じて支援する。 ・間違いを恐れずに 表現できるように支 援する。 ・代表生徒の発表に 対して教師が肯定的 なコメントをし、発 表者と他の生徒の学 習への意欲を高め る。	・本文の概要や 要点を理解で きているか。 (3)	ワークシ ート 活 動 の 観 察 ワークシ ート
13分	4. Pair Talk	・自分の考えを相手に伝 える。 ・相手の考えを聞き要約 しながら理解する。 ・他の生徒の意見を聞 く。	・ペア・ワークの相 手を次々と交代させ る。 ・数人の生徒に発 表させる。	・相手の考え を聞いたり自 分の考えを話 したりできて いるか。(1)	活 動 の 観 察
1分	Wrap-up ワークシート回収	・ワークシートを提出す る。	・クラス全体に適 切なフィードバッ クを与えるよう にする。 ・授業後に要約を 添削し、コメント を記入する。		

この単元でどのような力をどの程度身に付けさせた
いかという点を踏まえて、要約文の添削をする。

English Communication II Lesson 6 Iceland part 2 ワークシート

1 before you read * Look at page 72. Talk with your partners. Write down ideas.

questions	answers
Q1 Look at the first photo. What do you think of Iceland?	A1
Q2 Look at the second photo. What is a difference between parks in Japan and those in Iceland?	A2

2 gist * Answer the questions.

2/3 of Icelanders live near the ア (mountain ・ capital ・ sea).
In winter, people can see イ (Northern Lights ・ big snowmen ・ iced river).
In summer, people can see the ウ (morning star ・ daytime moon ・ midnight sun).

3 new words * Choose the right words from the list.

<List>

new words	meaning
1	beautiful in a dramatic way
2	= 2/3
3	charged with electricity
4	place around the North Pole
5	sitting in the sun to tan the skin
6	the sun light
7	light by a candle
8	e.g. Hokkaido is the prefecture in Japan.
9	12 o'clock at night
10	able to be done

the Arctic Circle	北極圏
two-thirds	3分の2
northernmost	最北の
daylight	日照
candlelight	ろうそくの明かり
electric	電気の
spectacular	目を見張るような
sunbathing	日光浴
possible	可能な
midnight	真夜中の

4 idioms

new idioms	meaning	new idioms	meaning
instead of	～の代わりに	on the other hand	他方では (二つのものを対比する時)

5 understand the text

キーワードや重要な情報を意識させながら、内容理解を深めさせるように工夫し、テキストから表現を抜き出して、穴埋めをするだけにならないようにする。

Iceland fact

location	an あ () country outside the い () ()
population	about う () ↓ 2/3 of them live near え () ↓ This is the お () () city in the world.
winter	Daylight is only か () () hours. It means Icelanders have long き () .

	<p>How to enjoy the nights</p> <p>1. using く ()</p> <p>2. seeing the け () ()</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>This is the most こ () () in the world.</p>
summer	<p>Days become さ () () than in winter.</p> <p>You can see the し () sun!</p> <p>how to enjoy the nights</p> <p>1. enjoying す ()</p> <p>2. enjoying せ () ()</p> <p style="text-align: center;">⇕</p> <p>difficulty</p> <p>People have to go to bed when it is そ () outside.</p>

Iceland and Japan: According to the passage, what do Iceland and Japan have in common?

た _____

Your idea: Why do Icelanders use candlelight in winter?

ち _____

6 it refers to... * What does [] word refer to?

line 6 Two-thirds of [its = _____] people live in or near Reykjavik.

7 false sentences * Rewrite the wrong words.

- In winter, people enjoy long nights with electric lights.
- In summer, people can see the daytime sun.

	wrong	→	right
1	()		()
2	()		()

8 questions * Answer the questions.

- Where do two-thirds of the people in Iceland live?
- What can you view at night in winter?

1
2

9 retelling

10 check up

Target: It is 形容詞 (for 人) to do 「人にとって~することは形容詞だ。」

I wish 人 to do 「人が~することを願う。」

ASK YOUR PARTNERS:

QUESTION What is important to you?

ANSWER _____.

★ It's important for 人 to ~を用いること

QUESTION What do you want 人 to do?

ANSWER _____.

★ I want 人 to ~を用いること

11 your classmates' ideas

* Talk about the next topic in groups.

学習内容を自分自身や日常生活に関することと結び付けさせる工夫をしています。

If it's dark (light) all day, what would you do? And why?

members	what	reasons
student A		
student B		
student C		

言語活動の CAN-DO リストにおける位置付けを示し、英語によるディスカッションを通して「主体的・対話的で深い学び」を目指した単元デザインとなっています。

【実践3：コミュニケーション英語Ⅲ】

単元ごとの指導と評価の計画（単元構想）

使用教材 教科書：_____ English Communication III（ 出版）

1 単元名 Lesson

2 単元の目標と言語活動

【単元の目標】

「宇宙ゴミ」が深刻な国際問題となっている状況を理解し、宇宙ゴミとはどのようなもので、なぜ宇宙ゴミが出されるのか、その危険性や対策について学ぶ。また「もし高校時代に宇宙旅行へ行けるとしたら」というテーマについて、そのよい点や問題点について考察し、英語でディスカッションをすることができる。

【言語活動】

- ・各パートの内容について、1分程度のプレゼンテーションを発表する。
- ・宇宙旅行に行くことのよい点や問題点を踏まえた上で、グループ内でディスカッションをする。

3 単元の評価規準

評価の観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
評価規準	①ペア・ワークやグループ・ワークにおいて、積極的に会話を続けている。	①本文の内容を要約し、因果関係を踏まえ、聞き手に伝わるように話すことができる。 ②自分の感想や意見を述べ、ディスカッションすることができる。	①本文を読み、宇宙ゴミについての大意を把握することができる。 ②宇宙ゴミの原因・結果・対策について理解できる。	①条件節を含まない、あるいは語句の省略された仮定法の文を理解している。 ②読んだ内容について、要約や感想を述べるための表現を理解している。
内容のまとめ	①話すこと、聞くこと	①②話すこと	①②読むこと	①書くこと ②話すこと
評価方法	①活動の観察	①②活動の観察	①②ワークシート	①定期考査（後日） ②活動の観察

4 主な言語活動と「CAN-DO リスト」との関連

	CAN-DO リスト (p.32)	言語活動
話すこと	<ul style="list-style-type: none"> ● 質問に対して答えるとき、新しい情報を加える、相づちを打つ、質問を返すなどをし、会話を途切れさせずに続けることができる。（3年「話す」） ● ディスカッションなどで与えられた役割を果たし、場面や状況に応じて、即興で話すことができる。（3年「話す」） 	<ul style="list-style-type: none"> ● ペア・トーク ● 要約 ● プレゼンテーション ● ディスカッション
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ● 教科書等で習った英文に関して、自分でまとめ直し、要約文を書くことができる。（3年「書く」） 	<ul style="list-style-type: none"> ● パラグラフライティング
聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ● 英語で聞き取った情報を基に、その後の展開を推測したり、答えを導き出したりすることができる。（3年「聞く」） 	<ul style="list-style-type: none"> ● ペア・トーク ● ディスカッション
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ● 速読で本文の内容をほぼ理解できる。（3年「読む」） ● 論理性のある文章を読むときに、Topic Sentence や Reason, Counter Argument 等を意識しながら、文章全体の構成を把握することができる。（3年「読む」） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 速読 ● 精読

5 指導と評価の計画

時間	ねらい, 学習活動, 指導上の留意点	評価の観点	評価方法
1	<p>[ねらい] 本文全体を読み, Vocabulary Sheet を参考にしながら速読により大意を把握し, 段落関係を理解する。</p> <p>[学習活動]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 単元内容の背景となる知識を活性化する。 ・教師による oral visual introduction 2. 新出表現の発音や意味を確認する。 3. 本文を読み, ワークシートの T/F questions により大意把握をし, 「主題」「因果関係」「解決法」「結論」などの段落構成を理解する。 <p>[指導上の留意点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動2について, 教師による発音指導の後に, ペアで互いに単語を発音し合い, 聞いている側がその意味を日本語で答える。授業の初めに毎時間行う。 ・活動3について, キーセンテンスを見つけて段落の要旨を速やかに理解し, パラグラフリーディングをするというねらいを伝える。 ・未知の語句の意味を類推しながらスピードを意識して読み進める。 ・今後行うグループ・ワークで, 単元のまとめとして「もし高校時代に宇宙旅行へ行けるとしたら」というテーマについて, グループでディスカッションすることを伝える。 	<p>関心・意欲・活動の観察態度</p> <p>理解①</p>	<p>活動の観察</p> <p>ワークシート</p>
2 ～ 3	<p>[ねらい] 各パートの内容についてメモを基に口頭で要約し, プレゼンテーションを発表する。</p> <p>[学習活動]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ペアによる新出表現のインプット活動 2. グループ内で協力し段落ごとに精読しながら, ワークシートに各段落の要旨をまとめ, 設問に答える。 3. 段落の要旨と段落間の関係を確認する。 4. 条件節を含まない仮定法の用法について理解する。 5. 音声CDや教師のモデルのスピードに遅れないように斉読する 6. 読んだ内容について, 簡単なメモを基に口頭で要約し, 1分以内でプレゼンテーションをペアで行う。 <p>[指導上の留意点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動2, 3では段落内の文のつながりも意識させる。 ・活動4では, 生徒に使用場面を意識させ, 単なる文法事項の説明にならないように注意する。 ・活動6について, 学習到達目標や評価項目を事前に周知させる。発表はペアの相手を変えながら3回程度行う。聞き手は発表者の評価を評価シートに記入し, よかった点や改善点を伝える。発表者は, 毎回の発表後に, 内容だけでなく発音や発表方法等の改善に努める。 	<p>関心・意欲・活動の観察態度</p> <p>理解②</p> <p>知識・理解①</p> <p>表現①</p> <p>表現②</p>	<p>活動の観察</p> <p>ワークシート</p> <p>定期考査</p> <p>活動の観察</p> <p>活動の観察</p>
4 ～ 5	<p>[ねらい] 「もし高校時代に宇宙旅行へ行けるとしたら」というテーマについて, そのよい点や問題点について, グループで自分の意見や感想を理由とともに発表し合いながら, ディスカッションをする。</p>	<p>表現②</p>	<p>活動の観察</p>

	<p>[学習活動]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 4～5人のグループをつくり、司会者と記録係を決める。 2. 宇宙旅行へ行くことのよい点や問題点について、司会者の進行で、できる限り多くの意見を出す。 3. グループ内の意見を基に、自分の意見を理由とともに2文以上の英語で書く。 4. グループのメンバーを入れ替え、再度司会者を決めてディスカッションする。司会者は全員がバランスよく話すことができるように配慮する。自分の意見を述べた後は、相手の意見を踏まえて賛成意見や反対意見を述べる。 5. 活動後は自己評価シートに記入しながら、振り返りをする。 		
--	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--

<実践3 CAN-DOリスト例>

	1年生	2年生	3年生
話すこと	<p>身近なテーマについて、相手に質問をし、答えることができる。</p> <p>あらかじめ自分の考えや説明をまとめ、それを聞き手に伝わるように発表することができる。</p>	<p>質問に対して答えるとき、何か新しい情報を付け加えることができる。</p> <p>さまざまなテーマについて、文章の流れや聞き手への分かりやすさを意識しながら原稿をまとめ、発表することができる。</p>	<p>質問に対して答えるとき、新しい情報を加える、相づちを打つ、質問を返すなどをし、会話を途切れさせずに続けることができる。</p> <p>ディスカッションなどでの役割を果たし、場面や状況に応じて、即興で話すことができる。</p>
書くこと	<p>ブレインストーミングができる。</p> <p>文法的な間違いを恐れず、英文を書くことに親しむことができる。</p> <p>身近なテーマについて、Topic Sentence, Reason 1, Reason 2, Reason 3 (Counter Argument), Conclusion の5文以上で自分の意見を書くことができる。</p>	<p>さまざまなテーマについて、文と文のつながりを示す語句に注意し、また客観的な理由を述べながら、100語程度で自分の考えをまとめることができる。</p>	<p>さまざまなテーマについて、自分の考えや関連する情報を元に、150語程度で論理的な文を書くことができる。</p> <p>教科書等で習った英文に関して、自分でまとめ直し、要約文を書くことができる。</p>
聞くこと	<p>短い対話文やスピーチを聞いて、情報や考えなどを大まかに理解することができる。</p>	<p>対話文を聞いて、話の要点を理解することができる。</p> <p>アナウンスやニュースのようなある程度まとまった内容の要点を理解することができる。</p>	<p>対話文や、まとまった内容の英文を聞き、必要な複数の情報を聞き取ることができる。</p> <p>英語で聞き取った情報を基に、その後の展開を推測したり、答えを導き出ししたりすることができる。</p>
読むこと	<p>未知の語があっても、英文を読み通すことをあきらめず、とばしたり意味を推測したりしながら、文章全体の大まかな内容を把握することができる。</p> <p>簡単な問題 (T or F 問題等) を解くのに必要な根拠となる箇所を見つけることができる。</p>	<p>速読で本文の内容をある程度理解できる。</p> <p>前後の文脈から、未知語の意味を類推して英文を読むことができる。</p> <p>パラグラフリーディングを意識し、段落ごとのまとまった意味を考えながら読むことができる。</p>	<p>速読で本文の内容をほぼ理解できる。</p> <p>論理性のある文章を読むときに、Topic Sentence や Reason, Counter Argument 等を意識しながら、文章全体の構成を把握することができる。</p> <p>必要な情報を英文の中から短時間で正確に見つけることができる。</p>

受動態の基本的な表現を用いて「何ができるようになってほしいか」を、単元の最初に示し、全員の生徒をゴールへ導くためにワークシートが活用されています。

【実践4：英語表現Ⅰ】

単元の指導と評価の計画（単元構想）

使用教材 教科書： _____ English Expression I （ _____ 出版）

1 単元名 Lesson

2 単元の目標と言語活動

【単元の目標】

- ・伝統的な物の説明を聞いて、その内容を口頭で伝えることができる。
- ・日本や地元には伝わる伝統的な物について、5文以上の英語で書いて説明できる。
- ・受動態の基本的な使い方が理解できる。

【言語活動】

- ・日本や地元の伝統的な物や文化・習慣について英語で紹介文を書き、口頭で説明する。

3 単元のCAN-DO（4技能ごとの学習到達目標の設定）

話すこと		書くこと		聞くこと		読むこと	
学習到達目標	評価方法	学習到達目標	評価方法	学習到達目標	評価方法	学習到達目標	評価方法
・英語を聞いて、その内容を伝えることができる	・活動の観察	・日本の伝統的な物や習慣について、5文以上の英語で書くことができる。	・ワークシート	・相手の発表を聞いて内容を理解し、適切にメモを取ることができる。	・活動の観察	・書かれた英文の内容を読み取ることができる。	・活動の観察

4 単元の評価規準（4観点ごとの評価規準の設定）

評価の観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
評価規準	①相手の話を聞きながらメモを取ったり、うなずいたり、聞き返したりしている。 ②コミュニケーションを図ろうとしている。	①英語を聞いて、その内容を伝えることができる。 ②日本の伝統的な物や習慣について、5文以上の英語で書くことができる。	①相手の発表を聞いて内容を理解し、適切にメモを取ることができる。 ②書かれた英文の内容を読み取ることができる。	①受動態について、基本的な使い方を理解している。
内容のまとめ	①②話すこと、聞くこと	①話すこと ②書くこと	①聞くこと ②読むこと	①話すこと、書くこと
評価方法	①②活動の観察	①活動の観察 ②ワークシート	①②活動の観察	①活動の観察、定期考査

5 指導と評価の計画

時間	ねらい、学習活動、指導上の留意点	評価の観点	評価方法
1	[ねらい] 受動態を含む英文を聞いて内容を理解したり、受動態を適切に用いて、物事の説明をしたりすることができる。		

時間	ねらい, 学習活動, 指導上の留意点	評価の観点	評価方法
	<p>[学習活動]</p> <p>1. メモを取りながら, 受動態を含む英文(写真の説明)を聞き, ペアで説明を再現したり, キーワードを使って日本に関する物を説明したりする。</p> <p>[指導上の留意点]</p> <p>・活動1では, ワークシート①を使う。</p>	<p>関心・意欲・態度①</p> <p>表現①</p> <p>理解①</p>	<p>活動の観察</p>
2	<p>[ねらい]</p> <p>日本の伝統的な物についての説明を5文以上での英語で書き, 相手に伝える。</p> <p>[学習活動]</p> <p>1. 教科書の例文と問題を学習し, 受動態の基本表現を確認する。</p> <p>2. 日本の伝統的な物についての説明を5文以上の英語で書く。</p> <p>3. ペアやグループで英文の内容を伝え合った後, クラス全体に伝える。</p> <p>[指導上の留意点]</p> <p>・活動1では, ワークシート②を使い, 物事の説明に使われる受動態を理解させ, 表現活動につながるようにさせる。</p> <p>・活動2では, ワークシート③を使い, 日本の伝統や文化・習慣を英語で説明させる。</p>	<p>知識・理解</p> <p>表現②</p> <p>理解①</p> <p>関心・意欲・態度①②</p>	<p>活動の観察,</p> <p>ワークシート</p> <p>活動の観察</p>

<実践4 CAN-DOリスト>

	1年生	2年生	卒業時	最終目標
話すこと	自分のことや, 身近な出来事など, なじみのある話題について, 英語で短いやり取りができる。	日常生活に関する質問に答えたり, 興味・関心のあることについて, 自分の考えを, 2~3文以上の英文で述べるができる。	与えられたテーマについて, 自分の考えを, 4~5文以上の英文である程度正確に表現できる。	英語を通じて, 場面や状況, 背景, 相手の表情や反応などを踏まえて, 話し手や書き手の伝えたいことを理解するとともに, 自分が伝えたいことを適切に伝えることができる。
書くこと	自分の意見や感想, または出来事の描写を, 適切な文構造を用いて, 5文程度の英語で書くことができる。	自分の意見や感想, または出来事の描写を, 文章構成(話の展開)を意識して, 10文程度で書くことができる。 教科書の要約を, 本文の表現を用いて, 簡潔に書くことができる。	さまざまな分野のテーマについて, 論理的な展開を意識して, 50語程度の英文で書くことができる。 教科書の内容を, 文章構成を考え, パラフレーズできる。	
聞くこと	リスニング活動に出てくる, 5文程度の長さの会話を聞いて, 話し手の意図や内容の状況を理解できる。	リスニング活動に出てくる, 10文程度の長さの会話を聞いて, 大筋を理解できる。	ある程度の長さのまとまった文章を聞いて, 主題と詳細情報を区別しながら理解できる。	
読むこと	一つの段落の中の, 英文の意味の区切れが分かり, 内容・要点を理解することができる。	複数の段落間の関係を考え, 文章全体の流れを大まかに捉えることができる。	教科書の本文について, 複数の段落間のつながりや文章全体の構成を意識しながら, ほぼ正確に内容を理解することができる。	

「英語表現 I」学習指導案

1 日時・実施場所

2 学級 科 年 組 (名)

3 学級観

ペア・ワークや表現活動などに活発に取り組む生徒が多い。さまざまな活動を取り入れ、英語によるコミュニケーション能力の向上を目指しているが、即興性のある活動やクラス全体に対する発表となると、消極的な姿勢を示す生徒も多い。

4 教材

教科書 _____ English Expression I (出版)

単元名 Lesson

5 単元の目標と言語活動

【単元の目標】

- ・伝統的な物の説明を聞いて、その内容を口頭で伝えることができる。
- ・日本や地元に伝わる伝統的な物について、5文以上の英語で書いて説明できる。
- ・受動態の基本的な使い方が理解できる。

【言語活動】

- ・日本や地元の伝統的な物や文化・習慣について英語で紹介文を書き、口頭で説明する。

6 単元の評価規準

評価の観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
評価規準	①相手の話を聞きながらメモを取ったり、うなずいたり、聞き返したりしている。 ②コミュニケーションを図ろうとしている。	①英語を聞いて、その内容を伝えることができる。 ②日本の伝統的な物や習慣について、5文以上の英語で書くことができる。	①相手の発表を聞いて内容を理解し、適切にメモを取ることができる。 ②書かれた英文の内容を読み取ることができる。	①受動態について、基本的な使い方を理解している。
内容のまとめ	①②話すこと、聞くこと	①話すこと ②書くこと	①聞くこと ②読むこと	①話すこと、書くこと
評価方法	①②活動の観察	①活動の観察 ②ワークシート	①②活動の観察	①活動の観察、定期考査

7 単元の指導計画

指導内容	配当時間
物事の説明に使われる表現を学ぶ。キーワードを使いながら、日本の伝統的な物を説明する。	1時間
受動態の基本的な用法を確認する。自分で考えたキーワードを使いながら、日本の伝統的な物を紹介する英文を書き、グループで発表し合う。	1時間(本時)

8 本時の目標

- (1) 物事の説明に使われる受動態の表現を確認する。(ワークシート②)
- (2) 物事の説明に必要なキーワードを適切に選ぶ。(ワークシート①)
- (3) キーワードを使いながら、日本の伝統的な物を紹介する英文を書く。(ワークシート③)
- (4) グループで紹介文の内容を発表し合う。

9 本時の展開（「主な評価の観点」の（ ）内の数字は、「9 本時の評価規準」における四つの「評価の観点」を示す）

時間	指導過程	生徒の学習活動	教師の活動及び指導上の留意点	主な評価の観点	評価方法
8分	1. 挨拶, Review	・写真を見て, その説明をする。	・発言を促す。必要に応じて, キーワードを挙げる。	・適切に物の説明ができる。 (2)	活動の観察
8分	2. 受動態の確認	・ワークシート②を使用して, 受動態の使い方を学ぶ。	・教科書の例文と練習問題の確認をする。	・家庭学習に取り組んでいる。 (4)	活動の観察
3分	3. キーワードの確認	・説明したい物のキーワード(ワークシート①)をペアで確認する。	・机間指導をし, 必要に応じて助言をする。	・協力して適切なキーワードを考えることができる。 (1)	活動の観察 ワークシート
12分	4. ライティング活動	・10分以内に自分の紹介したい物の説明を書く。(ワークシート③)	・時間を設定して, 書く活動に取り組みさせる。 ・机間指導をし, 必要に応じて助言をする。		
5分	5. ペア・ワーク	・書いた内容をペアで読み合い, 助言し合う。推敲して, 紹介文を完成させる。	・机間指導をして, 必要に応じて, 助言をする。	・協力して, ペア・ワークに取り組んでいる。 (1) (3)	活動の観察
12分	6. グループ・ワーク	・4人グループで, それぞれの紹介文を伝え合う。	・机間指導をして, 発音等の指導をするとともに, 全体発表の候補者を探す。	・相手に聞き取りやすい声の大きさとで読んでいる。 (1)	活動の観察
2分	7. 自己評価	・ワークシート③を使用して, 自己評価をする。	・ワークシートの回収と次回の予告(代表生徒による全体発表)をする。	・5文以上の紹介文を完成することができる。 (2)	ワークシート

～ ～ ～ ～ ～ Lesson 8 ワークシート① ～ ～ ～ ～ ～

Listening & Speaking Listen to the explanation and write down keywords below.

Grammar in use

Listen and fill in the blanks.

The Kofukuji () () () the Fujiwara in 669. It is famous for the statue of Ashura. The statue () () () wood, linen, and Japanese lacquer. Ashura has () () and () () and is very beautiful.

Practice Describe the following things using keywords.



natto
make / soybeans

tofu
make / soybeans

kabuki
play / male actors

shichigosan
celebrate
November 15th

Mt. Fuji
cover / snow

USE!

Introduce traditional Japanese cultures!! 習った表現を参考に、日本の伝統的な物について紹介しよう。

Example

I will tell you about the statue of Ashura. The statue is in the Kofukuji. The temple was built by the Fujiwara in 669. The statue of Ashura was made by the order of Empress Komyo in the eighth century. It is made of wood, linen, and Japanese lacquer. It has three faces and six arms. The statue is admired by people all over Japan. (7文)

Practice

Original

①紹介するもの 【富岡製糸場 _____】	①紹介するもの。伝えたい日本のものは？
②説明に必要なキーワード (単語・熟語)	②説明に必要なキーワード(単語・熟語)は？

Practice

I will tell you about Tomioka Silk Mill. _____

Point 1 受動態の基本

「(...)に ～される」などと表現する⇒受動態 (be 動詞+過去分詞) を用いる。

受動態に対し、「...は～する」の形を能動態という。

A 阿修羅 (あしゅら) 像は、日本中の人々にたたえられている。

	主語	be動詞	動詞の過去分詞形	by+動作主, 修飾語句など
A	The statue of Ashura	is	admired	by people all over Japan.

B 金剛力士像は、鎌倉時代に作られた。

The statue of Kongorikishi **was made** in the Kamakura period.

C 俳句は海外の学校で教えられていますか。—はい、教えられています。

Is haiku **taught** in school overseas? —Yes, it is.

D 奈良の大仏の下から何が発見されましたか。—2本の剣です。

What **was found** under the Great Buddha in Nara? —Two swords (were).

E 幸いなことに、その神社は戦争で壊されなかった。

Luckily, the shrine **wasn't damaged** in the war.

Point 2 by 以外の前置詞を伴う表現

その他の〈be 動詞+過去分詞〉を使った表現 —— 〈be 動詞+過去分詞〉の後に続く前置詞にも注意しよう。

A 歌舞伎は外国からの観光客に知られている。

	主語	be動詞	過去分詞	前置詞	動作主・原因・対象を表す表現など
A	Kabuki	is	known	to	foreign tourists.

B カレンは奈良の大仏の大きさに驚いた。

Karen was surprised at the size of the Great Buddha in Nara.

C その日本庭園は雪で覆われていましたか。

Was the Japanese garden covered with snow?

D その像は、漆でできている。

The statue is made of Japanese lacquer.

Check!

【A】 Choose the right word from the list below, and fill in the blanks.

1 江戸時代以前は梅の花が好まれていた。

Plum blossoms were () () people before the Edo period.

2 清水寺で今年の漢字が書かれた。

The kanji of the year was () at the Kiyomizudera.

3 甘酒は何からできているのですか。

What is amazake () from? <LIST> [covered / loved / made / written / by / at]

【B】 Reorder the words to make a correct sentence.

1 その神社はお正月には人でいっぱいになる。 [filled / is / people / the shrine / with] on New Year's Day.

2 観光客は日本の精進料理に満足しましたか。 [satisfied / the tourists / were / with] the Japanese vegetarian meal?

3 伝統的な日本ののりは、米から作られる。 Traditional Japanese glue [from / is / made / rice].

4 新勝寺では節分に俳優は何をまきましたか。 [by / the actors / thrown / was / what] at the Shinshoji during Setsubun?

【C】 Fill in the banks and complete the sentences.

1 その事故で何が被害を受けましたか。 () () () () the accident?

2 美しい扇子 (fan) がお寺の近くで売られている。

() () () () near the temple.

3 シカは神社の神聖な生き物として保護されている。

The () () () as sacred animals of the shrine.

4 アイヌ語はかつて北海道で多くの人々に話されていた。

The Ainu language () once () () many people in Hokkaido.

USE! ★具体的な説明項目を入れて書く。使ったキーワードには下線を引く。辞書は使わない。

A: Can you tell me something about traditional Japanese culture?

B: I will tell you about _____

日本の伝統文化を ALT に紹介し、質問やコメントをしてもらうこともできます。

Teacher's evaluation (教師評価)

観点	評価規準	評価基準 (Bが標準)	
外国語表現の能力	伝統・文化の説明をキーワードを用いて書くことができる。	(A) キーワードを用い、具体的な3項目以上について説明している。(7点) (B) キーワードを用い、具体的な3項目について説明している。(5点) (C) キーワードを用い、具体的な項目について説明している。(3点)	/10
言語	文法、綴りなどに気を付けて書くことができる。	(A) 誤りはほとんどなく、説明内容が十分伝わる。(3点) (B) 誤りは多少あるが、説明内容は伝わる。(2点) (C) 誤りが多く、内容理解を妨げる。(1点)	

評価規準、評価基準の内容を事前に生徒に示して、活動のねらいや目標を伝えます。

Listen to your classmates' short speeches and write some keywords below.

聞きながらメモ欄

Self-Evaluation (自己評価)

- 1 キーワードをもとに、物事の説明を英語で相手に口頭で伝えることができた

よくできた まあまあできた あまりできなかった できなかった
- 2 キーワードを適切に選び、身近にある日本の伝統や習慣のことを書いて伝えることができた

よくできた まあまあできた あまりできなかった できなかった
- 3 受動態の使い方が理解できた

よくできた まあまあできた あまりできなかった できなかった
- 4 英語で紹介文を書いてみて、大変だったことや出来上がりを読んでの感想・その他のコメント

ICT 機器を活用して、効果的なプレゼンテーションを目指させています。発表練習、評価、振り返りの場面でも、更に ICT 機器を有効活用することが期待されます。

【実践 5 : 英語表現 II】

「英語表現 II」 学習指導案

1 日時・実施場所

2 学級

科 第 学年 組 (男子 名, 女子 名, 計 名)

3 学級観

授業は比較的、落ち着いた雰囲気で行われているが、英語力に関しては中学校で身に付けておくべき力が備わっていない生徒もいる。家庭での学習習慣を身に付けさせることにも苦勞している。授業での言語活動などを通して、英語学習への興味や関心を高めさせ、自信をもって英語を使う経験をさせたい。

4 教材

(1) 教科書

単元名 プレゼンテーション「町のお薦めスポット」

※ 実際にお薦めの場所を訪れ、撮影した写真や動画などを活用して発表資料を作成する。

5 単元の目標

自分たちの住む町のお薦めの場所について、事前に話す内容を準備した上で、基本的な語句や定型表現を使い、簡単な情報を伝えることができる。

6 単元の評価規準

評価の観点	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
評価規準	①ペア・ワークやグループ・ワークにおいて、聞き手に分かりやすく伝えようとしている。 ②ペア・ワークやグループ・ワークにおいて、他の生徒の発言をしっかり聞いている。	①自分たちの住む町のお薦めの場所について、既習の語句や文法事項を使い、書くことができる。 ②①の原稿をもとに自分たちの住む町のお薦めの場所を紹介することができる。	①教師や他の生徒の発表を聞き、要旨を理解することができる。	①既習の語句や文法事項の基本的な用法を理解している。 ②聞いた内容について簡単な質問をしたり感想を述べるための表現を理解している。
内容の まとめ	①話すこと ②聞くこと	①書くこと ②話すこと	①聞くこと	①②書くこと
評価 方法	①②活動の観察	①ワークシート(発表原稿) ②発表	①ワークシート, 活動の観察	①ワークシート(発表原稿) ②ワークシート, 活動の観察

7 単元の指導計画

指導内容	配当時間
プレゼンテーションの実施要項(p.42)を配付し、評価の観点を説明する。なるべく近隣に住んでいる生徒同士でグループをつくり、自分たちの住む町のお薦めの場所について話し合う。	1 時間

指導内容	配当時間
紹介する場所を決め、グループの中で誰がどの場所を紹介するかを決める（1名は Introduction, Conclusion を担当する）。発表の際に、どのような資料を使用するかも検討する。第1原稿を作成し、提出する。	2時間
第1原稿を返却する。生徒が加筆、訂正をし、再度提出する。教師がモデルを示し、プレゼンテーションをする際の留意点をワークシート等を使って説明する。	1時間
原稿を返却する。最終原稿を作成する。プレゼンテーションをする際の資料をパワーポイントを用いて作成する。本番に向けて、練習やリハーサルを行う。	2時間
自分たちの町のお薦めの場所について、グループごとにプレゼンテーションを行う。発表するグループ以外はプレゼンテーションを聞き、質問やコメントを記入する。	1時間（本時）
教師による評価結果（ルーブリック形式）を返却し、フィードバックする。	1時間

8 本時の目標

- (1) 抑揚、発音、意味の区切り、アイコンタクト等を意識しながら、相手に伝わりやすいように発表する。
- (2) グループ・ワークに積極的に参加し、主体的に活動することができる。
- (3) 他のグループの発表を聞き、質問をしたり感想を書くことができる。

9 本時の評価規準

評価の観点	1. コミュニケーションへの関心・意欲・態度	2. 外国語表現の能力	3. 外国語理解の能力	4. 言語や文化についての知識・理解
評価規準	① 授業に積極的に参加し、伝えたいことをグループのメンバーまたはクラス全体に向けて主体的に話している。	① 正しいイントネーションや、身振り手振り等を使って、聞き手に伝わりやすいよう心がけてスピーチをすることができる。	① 教師のモデルスピーチや他の生徒のスピーチを聞き、要旨を理解することができる。	① 既習の語句や文法事項の基本的な用法を理解している。
内容のまとめ	① 話すこと	① 話すこと	① 聞くこと	① 書くこと
評価方法	① 活動の観察	① 活動の観察	① ワークシート、活動の観察	① ワークシート

10. 本時の展開（「主な評価の観点」の（ ）内の数字は、「9. 本時の評価規準」における四つの「評価の観点」を示す。）

時間	指導過程	生徒の学習活動	教師の活動 及び 指導上の留意点	主な評価の観点	評価方法
5分	Warm Up ジェスチャーゲーム	・グループで、ジェスチャーを用いて英文の空所を埋めるゲームをする。	・ゲームのルールや進め方をクラス全体に説明する。	・積極的に活動に参加しているか。 (1)	活動の観察
5分	1. 音読練習	・生徒たちの書いた原稿に出てきた簡単な英文を使用し、抑揚を付けて音読する練習をする。	・内容語と機能語の違いを意識して、教師が抑揚を付けて音読し、生徒にリピートさせる。	・正しいイントネーションで音読できているか。 (2)	活動の観察

時間	指導過程	生徒の学習活動	教師の活動 及び 指導上の留意点	主な 評価の観点	評価 方法
5分	2. 教師によるモデルの提示	・教師によるモデルを聞き、発表をする際の留意事項を再確認する。	・生徒のモデルになるように、ルーブリックの評価項目を意識しながら発表する。		
4分	3. 発表の最終練習	・ルーブリックの評価項目を意識し、本番前の最終練習をグループ内で行う。	・ALTと必要に応じて抑揚、発音などの指導を行う。 ・ALTには評価のために授業に参加してもらう。	・指導の内容を踏まえ、聞き手に伝わりやすいように話せているか。 (2)	活動の観察
23分	4. 自分たちの住む町のお薦めの場所についての発表と発表に対する質問	・班ごとにクラスの前立ち、自分たちの住む町のお薦めの場所についてパワーポイントを用いて発表する。 ・教師からの質問に答える。 ・発表について質問をしたり、感想を述べる。	・発表しやすい雰囲気をつくる。発表を聞くときの留意点を指示する。 ・生徒のつまずきに応じて支援する。	・抑揚、発音、意味の区切りやアイコンタクト等を意識しながら発表することができるか。(2) ・教師や他の生徒からの質問に適切に答えているか。(3)(4) ・適切な質問をしたり、感想を述べたりしているか。 (3)(4)	活動の観察 ワークシート
3分	Wrap Up 全体に向けてのフィードバック(全部のグループが終了しなければ、次回の授業で行う)	・発表を終えた班への質問やコメントを記入する。教師からのフィードバックを聞く。	・本日の所感を述べ、次回の授業で、どの班から発表するかを予告をする。		

～ ～ ～ ～ Lesson 10 言語活動プリント ～ ～ ～ ～

◆Task 1 You would like to introduce your hometown to foreigners who live in Japan. Tell them about nice places to visit, interesting things to do, and special dishes to enjoy and so on. In your group, choose three places (things) in your hometown and make a presentation about them. The presentation should be about three minutes.

1st Step ～Brain Storming～

Name your favorite places (things) in your hometown and make a list for the presentation. Work in your group.

Name	What can you do there?
Nagoya Port	You can enjoy seeing various kinds of fish at the aquarium. You can ride a Ferris wheel at the port.

■Useful Expression

Q: Could you tell me about the good points about your hometown?

A: Sure. I live in _____.

My favorite place in my hometown is _____.

My hometown is famous for _____.

There is(are) _____ in my hometown.

If you visit my hometown in _____ you can enjoy _____.

Continue the conversation.

2nd Step

Choose three places (things) from the list. You have to bring a photo of each place or the thing itself.

自分たちが紹介する場所, 名産品等の名前を書きなさい。※班で三つ (必ず写真や現物を用意すること)

1

資料を用意する人→ _____

2

資料を用意する人→ _____

3

資料を用意する人→ _____

資料をまとめる人 (パワーポイント) → _____

3rd Step

Choose three places (things) which you put in your presentation and explain each place(thing) in English. Work in your group.

1 Things(photos, videos...) which you use in your presentation

→

2 Things(photos, videos...) which you use in your presentation

→

3 Things(photos, videos...) which you use in your presentation

→

4th Step Write the second draft for each place (event).

5th Step Write introduction and conclusion of your speech.

Introduction

--

Conclusion

--

評価表 (Rubric)

指導過程で重視した内容を、配点にも反映させます。

評価項目	評価基準		
発音 抑揚 意味の区切り	正確な発音で、効果的に抑揚を付け、意味の区切りを意識してスピーチすることができる。	完全ではないが、正しい発音で、抑揚や意味の区切りを意識して発表しようという姿勢が感じられる。	間違った発音が目立ち、抑揚や意味の区切りを意識せず、一本調子のスピーチになっている。
	10点	5点	3点
非言語コミュニケーション	適度に聞き手に視線を向けたり、効果的に資料等を用い、分かりやすく伝えることができる。	資料等を用い、分かりやすく伝えようとしている。	資料等を使わず原稿を読んでいるだけのスピーチになっている。
	5点	3点	1点
内容 (1) 場所やイベントの紹介担当者用	場所やイベント等に関して、個人的なエピソードや感想を交えて、聞き手の興味を引くような内容である。	場所やイベント等に関して、個人的なエピソードや感想を交えて紹介している。	場所やイベント等に関する情報提供が中心で、個人的なエピソードや感想が含まれていない。
	5点	3点	1点
内容 (2) 導入と結論の担当者用	導入と結論がともに聞き手にとって分かりやすく、紹介する場所やイベント等にふさわしい内容になっている。	導入と結論のどちらかは聞き手にとって分かりやすく、紹介する場所やイベント等にふさわしい内容になっている。	導入と結論がともに聞き手にとって分かりづらく、紹介する場所やイベント等にふさわしくない内容になっている。
	5点	3点	1点
			合計 点

<実践5 CAN-DOリスト>

学習到達目標と外部指標による目標値を、詳細にまとめています。

	1年	2年	3年
話すこと <発表> Spoken Production	<p>1-1 英語の授業の中で、教師に簡単な質問をしたり、許可を求めたりすることができる。</p> <p>1-2 絵を見て、風景や状況を、簡単な語や基礎的な構文を用い、簡潔に描写することができる。</p> <p>1-3 前もって話す内容を用意した上で、基礎的な語句、定型表現を用いて、人前で実物を見せながらその物を説明することができる。</p> <p>1-4 基礎的な語句、定型表現を用いて、限られた個人情報（家族や趣味など）や簡単な情報（時間や日時、場所など）を伝えることができる。</p> <p>1-5 前もって話す内容を用意した上で、身近なトピックについて、簡単な語句や基礎的な構文を用い、意見を述べることができる。</p>	<p>2-1 英語の授業の中で、教師に質問をしたり、許可を求めたりすることができる。</p> <p>2-2 絵を見て、風景や状況を、簡単な語や基礎的な構文を用い、複数の文で描写することができる。</p> <p>2-3 一連の簡単な語句や文を用い、自分の趣味や特技に触れながら自己紹介をすることができる。</p> <p>2-4 写真や絵、地図などの視覚的補助を利用してしながら、一連の簡単な語句や文を用いて、日常生活に関連したトピック（自分自身、学校、地域など）について、短いスピーチをすることができる。</p> <p>2-5 一連の簡単な語句や文を用い、意見や行動計画を、理由を挙げながら簡潔に述べることができる。</p>	<p>3-1 英語の授業の中で、教師に質問をしたり、許可を求めたりすることができる。</p> <p>3-2 絵を見て、風景や状況を簡単な語や基礎的な構文を用い、複数の文で順序立てて描写できる。</p> <p>3-3 写真や絵、地図などの視覚的補助を利用しながら、一連の簡単な語句や文を用いて、日常生活に関連したトピック（自分自身、学校、地域など）について、短いスピーチをすることができる。</p> <p>3-4 一連の簡単な語句や文を用い、意見や行動計画を、理由を挙げながら簡潔に述べることができる。</p> <p>3-5 使える語句や表現をつないで、自分の経験や夢、希望を順序立て、話を広げながら、ある程度詳しく語るすることができる。</p>
話すこと <やり取り> Spoken Interaction	<p>1-1 教師による、英語での簡単な指示に対して応答することができる。</p> <p>1-2 挨拶をはじめとして、簡単なやり取りをかわすことができる。</p> <p>1-3 なじみのある定型表現を用いて、時間・日にち・場所について質問したり、質問に答えたりすることができる。</p> <p>1-4 家族、日課、趣味などの個人的なトピックについて、（必ずしも正確ではないが）なじみのある表現や基礎的な文を用いて、質問したり、質問に答えたりすることができる。</p>	<p>2-1 教師による、英語での指示・説明に回答することができる。</p> <p>2-2 自分自身についてなど、なじみのある話題について英語で短いやり取りができる。</p> <p>2-3 基本的な語や言い回しを用いて日常的なやり取りにおいて応答することができる。</p> <p>2-4 趣味、部活動などのなじみのあるトピックに関して、はっきりと話されれば、簡単な質疑応答をすることができる。</p> <p>2-5 基本的な語や言い回しを使って、人を誘ったり、誘いを受けたり、断ったりすることができる。</p>	<p>3-1 教師による、英語での指示・説明に回答することができる。</p> <p>3-2 簡単な英語で、意見や気持ちをやり取りしたり、賛成や反対などの自分の意見を伝えたり、物や人を比べたりすることができる。</p> <p>3-3 予測できる日常的な状況（郵便局・駅・店など）ならば、さまざまな語句や表現を用いてやり取りができる。</p> <p>3-4 身近なトピック（学校・趣味・将来の希望）について、簡単な表現を幅広く用いて意見を伝え、情報交換ができる。</p>
書くこと Writing	<p>1-1 簡単な語や基礎的な表現を用いて、身近なこと（好き嫌い、家族、学校生活など）について短い文章を書くことができる。</p> <p>1-2 自分の経験について、辞書を用いて短い文章を書くことができる。</p>	<p>2-1 文と文を and, but, because などの簡単な接続詞でつなげるような書き方であれば、基礎的・具体的な語彙や簡単な句や文を用いて、日記や写真、事物の説明文などのまとまりのある文章を書くことができる。</p>	<p>3-1 自分に直接関わりのある環境（学校、職場、地域など）での出来事を、身近な状況で使われる語彙・文法を用いて、ある程度まとまりのあるかたちで、描写することができる。</p>

	1年	2年	3年
書くこと Writing	1-3 趣味や好き嫌いについて、簡単な語や基礎的な表現を使って複数の文で書くことができる。 1-4 日常的・個人的な内容であれば、招待状、私的な手紙、メモ、メッセージなどを簡単な英語で書くことができる。	2-2 身の回りの出来事や趣味、場所などについて、個人的経験や自分に直接必要のある領域の事柄であれば、簡単な描写ができる。 2-3 聞いたり読んだりした内容(生活や文化の紹介などの説明や物語)であれば、基礎的な語彙や表現を用いて、感想や意見などを簡潔に書くことができる。	3-2 身近な状況で使われる語彙・文法を用いれば、順序立てて、作業の手順などを示す説明文を書くことができる。
聞くこと Listening	1-1 かなり配慮して、1文ずつゆっくり話してもらえば、教師による英語での簡単な指示・説明を聞いて理解することができる。 1-2 かなり配慮して、1文ずつゆっくり話してもらえば、ごく簡単な英語で話された、事物に関する紹介や対話を聞いて、情報や考えを理解したり、概要や要点を捉えたりすることができる。	2-1 ある程度配慮して話してもらえば、教師による英語での指示・説明を聞いて理解することができる。 2-2 ある程度配慮して話してもらえば、簡単な英語で話された、事物に関する紹介や報告、対話や討論などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点を捉えたりすることができる。	3-1 はっきりとした発音で話してもらえば、教師による英語での指示・説明を聞いて理解することができる。 3-2 はっきりとした発音で話してもらえば、分かりやすい展開の、事物に関する紹介や報告、対話や討論などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点を捉えたりすることができる。
読むこと Reading	1-1 コミュニケーション英語Ⅰの教科書(1,600語レベル)を読んで、概要や要点を捉えることができる。	2-1 コミュニケーション英語Ⅱの教科書(2,300語レベル)について、速読や精読など目的に応じた読み方ができる。 3-3 簡単な英語で表現されている旅行ガイドブック、レシピなど実用的・具体的で内容が予想しやすいものから、必要な情報を探することができる。	3-1 コミュニケーション英語Ⅲの教科書(3,000語レベル)について、速読や精読など目的に応じた読み方ができる。 3-2 看板、メニュー、携帯メール、ポスターや招待状等の日常生活で使われている簡単な文章を読み、理解することができる。
外部指標 <目標>	・英検3級(全員) ・英検準2級(名以上) ・受容語彙:2,000語 *中学校(1,200)+コミュ英Ⅰ(400)=1,600語 *英検3級≒中学卒業程度(2,000語レベル) [身近な英語を理解し、また使用することができる]	・英検準2級(名以上) ・英検2級(名以上) ・受容語彙:3,600語 *1年次まで(1,600)+コミュ英Ⅱ(700)=2,300語 *英検準2級≒高校中級程度(3,600語レベル) [日常生活に必要な英語を理解し、また使用することができる]	・英検準2級(名以上) ・英検2級(名以上) ・受容語彙:5,000語 *2年次まで+コミュニケーション英語Ⅲ(700)=3,000語 *センター試験(4,000語超) *英検2級≒高校卒業程度(5,000語レベル) [社会生活に必要な英語を理解し、また使用することができる]

6 英語教育に役立つ文献・資料

【参考文献】

○ 英語教育全般

- ・『フォーカス・オン・フォームと CLIL の英語授業』 和泉伸一 アルク 2016
- ・『日本人学習者に合った効果的英語教授法入門 ―EFL 環境での英語習得の理論と実践―』 佐藤臨太郎, 笠原究, 古賀功 明治図書 2015
- ・『コミュニケーションな英語教育を考える』 上智大学 CLT プロジェクト アルク 2014
- ・『英語教育の心・技・愛 ー小・中・高・大で変わらないことー』 静哲人, 正頭英和, 小林翔 研究社 2014
- ・『英語教師のための第二言語習得論入門』 白井恭弘 大修館書店 2012
- ・月刊『英語教育』 大修館書店

○ 授業づくり

- ・『英語スピーキング指導ハンドブック』 泉恵美子, 門田修平 編著 大修館書店 2016
- ・『英語デジタル教材作成・活用ガイド』 唐澤博, 米田謙三 大修館書店 2014
- ・『英語授業ハンドブック 高校編』 金谷憲, 阿野幸一, 久保野雅史, 高山芳樹 編 大修館書店 2012
- ・『英語音読指導ハンドブック フォニックスからシャドーイングまで』 鈴木寿一, 門田修平 編著 大修館書店 2012
- ・『高校英語授業を変える！ 訳読オンリー授業から抜け出す3つのモデル』 金谷憲 編著, 高山芳樹, 白倉美里, 大田悦子 著 アルク 2011
- ・『英語で英語を読む授業』 卯城祐司 研究社 2011
- ・『推論発問を取り入れた英語リーディング指導 ー深い読みを促す英語授業ー』 田中武夫, 島田勝正, 紺渡弘幸 編著 三省堂 2011
- ・『現場で使える教室英語 重要表現から授業への展開まで』 吉田研作, 金子朝子 監修 石渡一秀, グレグ・ハイズマンズ 著 三修社 2011
- ・『英語授業の「幹」をつくる本』 北原延晃 ベネッセコーポレーション 2010
- ・『パラグラフ・ライティング指導入門 ー中高での効果的なライティング指導のためにー』 大井恭子 編著, 田畑光義, 松井孝志 著 大修館書店 2008

○ 文法指導やタスクの活用

- ・『英語で教える英文法 ー場面で導入, 活動で理解ー』 卯城祐司 編著 研究社 2014
- ・『タスクを活用した英語授業のデザイン』 松村昌紀 大修館書店 2012
- ・『Active Grammar Level 1・2 with Answers and CD-ROM』 Davis, F., Rimmer, W. Cambridge University Press 2011
- ・『Doing Task-Based Teaching』 Willis, D & Willis, J Oxford University Press 2007
- ・『大学生のための読む・書く・プレゼン・ディベートの方法』 松本茂, 河野哲也 玉川大学出版部 2007
- ・『文法項目別 英語のタスク活動とタスク ー34の実践と評価ー』 高島英幸 大修館書店 2005

○ アクティブ・ラーニングや協同学習

- ・『All English のできるアクティブ・ラーニングの英語授業』 山本崇雄 学陽書房 2016
- ・『アクティブ・ラーニングの授業づくり アイディアブック』 瀧沢広人 明治図書 2016
- ・『英語教師のためのアクティブ・ラーニングガイドブック』 上山晋平 明治図書 2016
- ・『協同学習を取り入れた英語授業のすすめ』 江利川春雄 編著 大修館書店 2012

○ CAN-DO リストやルーブリックの作成・活用

- ・『英語4技能評価の理論と実践 —CAN-DO・観点別評価から技能統合的活動の評価まで—』
望月昭彦, 印南洋, 小泉利恵, 深澤真 著 大修館書店 2015
- ・『CAN-DO リスト作成・活用 英語到達度指標 CEFR-J ガイドブック』 投野由紀夫 編
大修館書店 2013
- ・『ヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR) から学ぶ英語教育』 キース・モロウ 編 研究社 2013

○ パフォーマンステスト

- ・『「資質・能力」を育てるパフォーマンス評価 アクティブ・ラーニングをどう充実させるか』
西岡加名恵 編著 明治図書 2016
- ・『英語授業を変えるパフォーマンス・テスト 高校』 佐藤一嘉 編著 明治図書 2014

【参考資料】

○ 学習指導要領

- ・『高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編』 文部科学省 2010

○ 授業実践及び言語活動の事例

- ・『新学習指導要領に対応した外国語活動及び外国語科の授業実践事例映像資料』 文部科学省
※ 各校に配付されている DVD の学習指導案が文部科学省ウェブサイトに掲載されている。
- ・『英語教育推進リーダー中央研修 DVD 教材』 British Council 2016
- ・『言語活動の充実に関する指導事例集【高等学校版】<外国語>』 文部科学省 2012
- ・『外国語（英語）科における言語活動中心の単元構想と評価の在り方に関する研究』
愛知県総合教育センター 2015
- ・『コミュニケーション能力を育成する外国語科指導の在り方に関する研究—単元構想の工夫と言語活動の充実—』 愛知県総合教育センター 2013
- ・『TBLT 導入による英語授業の改善 —タスク活動を通じたコミュニケーション能力の育成—』
愛知県総合教育センター 2009

○ CAN-DO リストや評価

- ・『各中・高等学校の外国語教育における「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標設定のための手引き』
文部科学省 2013
- ・『評価規準の作成, 評価方法等の工夫改善のための参考資料 (高等学校 外国語)』 国立教育政策研究所 2012
- ・『指導と評価の充実に向けて ~学習評価の工夫改善を意識した学習指導のポイント~』
愛知県総合教育センター 2017
- ・『多様な学習成果の評価手法に関する研究』 愛知県総合教育センター 2016

○ 授業での英語使用について

- ・『Classroom English (教室英語集)』 愛知県総合教育センター 2009

○ 英語教育全般・学習コンテンツ

- ・『えいごネット』 (財) 英語教育協議会 (ELEC) <http://www.ego-net.jp/>
- ・『英語情報』 公益財団法人 日本英語検定協会 <http://www.eiken.or.jp/eiken/group/>
- ・『Teaching English』 British Council <http://www.teachingenglish.org.uk/teaching-teens>